

(様式第10)

弘大病経第225号  
平成26年10月2日

厚生労働大臣 殿

弘前大学医学部附属病院長  
藤

弘前大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
氏 名	国立大学法人弘前大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

弘前大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地	電話(0172)33-5111
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 血液内科 3 循環器内科 4 呼吸器内科 5 腎臓内科 6 内分泌内科 7 糖尿病・代謝内科 8 感染症内科 9 神経内科 10 腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 乳腺外科 5 形成外科 6 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制 一般歯科診療所より紹介された各種難治性疾患に対しての診療を実施しています。具体的には、う蝕や歯周疾患に伴う顎骨周囲の炎症性疾患、顎関節症、口腔ケア、救急処置の診療が適切に行える体制を整備しています。 また、歯科研修医に対しても、口腔外科症例の他に一般的歯科診療が行える診療体制を整備しています。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科
---------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	6床	0床	0床	597床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	317人	7人	319.2人	看護補助者	24人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	16人	0人	16人	理学療法士	7人	臨床検査技師	45人
薬 剤 師	26人	0人	26人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	22人	1人	22.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	536人	16人	548.3人	臨床工学技士	12人	医療社会事業従事者	1人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	0人	3人	2.3人	歯科技工士	1人	事務職員	117人
管理栄養士	6人	0人	6人	診療放射線技師	31人	その他の職員	22人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	18人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	33人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	0人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	13人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	6人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	4人
		合 計	152人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	490.7人	9.3人	500.1人
1日当たり平均外来患者数	1460.3人	51.3人	1,511.6人
1日当たり平均調剤数			1,812.4 剤
必要医師数			135人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			23人
必要(准)看護師数			303人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	793 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	26床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 57 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数 4 床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 116 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 : 薬剤部薬務室					
化学検査室	300m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 移動式免疫発光測定装置・電気化学発光測定装置・システム生物顕微鏡 等			
細菌検査室	123m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) MHE-130B1・高圧蒸気滅菌装置・テーブルトップ遠心機 等			
病理検査室	148m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動染色装置・検体前処理装置 等			
病理解剖室	117m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ホルマリン希釈混合装置・電動解剖鋸 等			
研究室	10,356m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遺伝子発現・薬剤分析システム・パーソナル次世代シーケンサー 等			
講義室	454m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 2 室	収容定員 362 人		
図書室	1341m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 3 室	蔵書数 17万9千冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	81.7%	逆紹介率	70.9%
算出根拠 A: 紹介患者の数	10,394人		
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,830人		
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	930人		
D: 初診の患者の数	13,851人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん (ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに係るものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使った腎部分切除術であり、低侵襲性である。			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使った膀胱全摘除術であり、低侵襲性である。			
医療技術名	ロボット支援下回腸新膀胱造設術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使用して、回腸で新しい膀胱(代用膀胱)を造設するものであり、低侵襲性である。			
医療技術名	ロボット支下援膵体尾部切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使用した膵腫瘍に対する低侵襲手術である。			
医療技術名	ロボット支下胆嚢摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使った胆嚢摘出術であり、低侵襲手術である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	80人	・膿疱性乾癬	6人
・多発性硬化症	53人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	54人	・原発性胆汁性肝硬変	24人
・全身性エリテマトーデス	174人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	69人
・再生不良性貧血	29人	・混合性結合組織病	20人
・サルコイドーシス	83人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	15人	・特発性間質性肺炎	6人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	102人	・網膜色素変性症	50人
・特発性血小板減少性紫斑病	41人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	25人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	175人	・神経線維腫症	16人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	13人	・慢性血栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	41人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	79人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	10人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	147人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10人
・後縦靭帯骨化症	72人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	10人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	4人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	19人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	8人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	7人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	128人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	新生児特定集中治療室管理料2
歯科外来診療環境体制加算	小児入院医療管理料4
歯科診療特別対応連携加算	
特定機能病院入院基本料	
臨床研修病院入院診療加算	
救急医療管理加算	
超急性期脳卒中加算	
妊産婦緊急搬送入院加算	
診療録管理体制加算	
急性期看護補助体制加算	
看護職員夜間配置加算	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算	
緩和ケア診療加算	
がん診療連携拠点病院加算	
医療安全対策加算	
感染防止対策加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊婦管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
退院調整加算	
救急搬送患者地域連携紹介加算	
データ提出加算	
救命救急入院料	
特定集中治療室管理料	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	長期継続頭蓋内脳波検査
高度難聴指導管理料	神経学的検査
糖尿病合併症管理料	補聴器適合検査
がん性疼痛緩和指導管理料	内服・点滴誘発試験
がん患者指導管理料	センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
外来緩和ケア管理料	画像診断管理加算1
移植後患者指導管理料	画像診断管理加算2
糖尿病透析予防指導管理料	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影
院内トリアージ実施料	CT撮影及びMRI撮影
外来リハビリテーション診療料	冠動脈CT撮影加算
外来放射線照射診療料	大腸CT撮影加算
がん治療連携計画策定料	心臓MRI撮影加算
がん治療連携管理料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
肝炎インターフェロン治療計画料	外来化学療法加算1
薬剤管理指導料	無菌製剤処理料
医療機器安全管理料1	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
医療機器安全管理料2	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
歯科治療総合医療管理料	集団コミュニケーション療法料
持続血糖測定器加算	認知療法・認知行動療法
造血器腫瘍遺伝子検査	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	一酸化窒素吸入療法
検体検査管理加算(Ⅳ)	皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
植込型心電図検査	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
時間内歩行試験	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
胎児心エコー法	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのもの))
ヘッドアップティルト試験	網膜再建術
皮下連続式グルコース測定	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	膀胱水圧拡張術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
経皮的冠動脈形成術	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
経皮的冠動脈ステント留置術	輸血管管理料 I
経皮的大動脈弁置換術	貯血式自己血輸血管理体制加算
磁気ナビゲーション加算	自己生体組織接着剤作成術
経皮的中隔心筋焼灼術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	内視鏡手術用支援機器加算
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	歯周組織再生誘導手術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	麻酔管理料(I)
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	麻酔管理料(II)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	放射線治療専任加算
補助人工心臓	外来放射線治療加算
経皮的大動脈遮断術	高エネルギー放射線治療
ダメージコントロール手術	1回線量増加加算
腹腔鏡下肝切除術	強度変調放射線治療(IMRT)
生体部分肝移植術	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	体外照射呼吸性移動対策加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	定位放射線治療
腹腔鏡下小切開副腎摘出術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	病理診断管理加算
同種死体腎移植術	クラウン・ブリッジ維持管理料
生体腎移植術	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・消化器(内科・外科)病理合同カンファレンス週1回 ・泌尿器・病理合同カンファレンス週1回 ・細胞診カンファレンス月2回 ・脳神経外科・病理合同カンファレンス月1回 ・婦人科・病理合同カンファレンス月1回 ・呼吸器・病理合同カンファレンス週1回 ・リンパ腫カンファレンス月1回 ・その他不定期の検討会月数回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 15 例 / 部検率 8.50%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
前立腺特異抗原を凌駕する糖鎖標的前立腺癌診断ツールの開発と臨床応用	大山 力	泌尿器科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
GATA1転写因子の質的・量的異常による白血病発症の仕組みの解明	伊藤 悦朗	小児科学講座	4,300,000	補委 日本学術振興会
標的蛋白を急速に分解する画期的マウスシステムの開発	澤村 大輔	皮膚科学講座	3,900,000	補委 日本学術振興会
脳画像解析とCNV解析の融合による孤発性自閉症と家族性自閉症の病態解明	中村 和彦	神経精神医学講座	3,700,000	補委 日本学術振興会
変形性膝関節症および膝前十字靭帯の発生要因および予防に関する疫学的研究	石橋 恭之	整形外科科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
DNA損傷修復マーカーを用いた膠芽腫における抗癌剤作用機序と悪性化の解明	黒瀬 顕	病理診断学講座	700,000	補委 日本学術振興会
冠縮性狭心症の成因に関する分子生物学的研究:P122蛋白の役割の確立	奥村 謙	循環呼吸腎臓内科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
安全な脳梗塞治療法の開発:スタフィロキナーゼの応用	嶋村 則人	脳神経外科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
光線力学的療法とクロフィリン酸を用いた卵巣癌播種病巣に対する治療戦略	横山 良仁	産科婦人科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
メカノセンサーとしての顎骨由来培養骨膜シート移植による新規骨増生法の開発	木村 博人	歯科口腔外科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
統合失調症の個別化医療:疾患感受性遺伝子を用いたPK-PD-PGxモデルの構築	古郡 規雄	神経精神医学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
新規昇圧物質カップリングファクター6の血管傷害性に対する制御機構の確立	長内 智宏	循環呼吸腎臓内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
切除不能大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除の適応拡大に向けた新たな戦略	袴田 健一	消化器外科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
脳動脈瘤発生、増大、破裂に対するポリフェノールの抑制効果	大熊 洋揮	脳神経外科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
BCG抵抗性膀胱癌の糖鎖プロファイル同定とナノパーティクルBCGによる治療薬開発	盛 和行	泌尿器科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
好酸球性中耳炎モデルを用いた好酸球性中耳炎の病態解明と治療法の開発	松原 篤	耳鼻咽喉科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
視細胞保護を目指した新たな分子標的療法の研究	中澤 満	眼科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
多分割コリメータ呼吸動体連動可変による超非侵襲放射線追跡照射法の実用化研究	成田 雄一郎	放射線科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
生活習慣との相互作用を考慮した生活習慣病危険遺伝子因子の検索	大門 眞	内分泌代謝内科学講座	1,800,000	補委 日本学術振興会
麻酔後睡眠障害の治療戦略:睡眠ホメオスタシス調節の視点からのアプローチ	吉田 仁	救急・災害医学講座	600,000	補委 日本学術振興会
赤血球によるケモカインの吸着と放出のメカニズムに関する研究	萱場 広之	臨床検査医学講座	500,000	補委 日本学術振興会
ヘリコバクターピロリ感染が脳・心血管疾患危険因子に及ぼす影響	下山 克	消化器血液内科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
地方医療圏における全体的医療情報共有による広域搬送システムの構築	花田 裕之	救急・災害医学講座	700,000	補委 日本学術振興会
マーカレス画像処理新アルゴリズムを用いたMV-X線透視画像による追跡照射法の開発	高井 良尋	放射線科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
ゴム人工筋肉を用いた心補助装置の開発	鈴木 保之	胸部心臓血管外科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会

小計 25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ニューロペプチドSの鎮痛作用に関する研究	廣田 和美	麻酔科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
糖鎖バイオマーカーを用いた癌の総合力評価により前立腺癌の過剰治療を回避する方法	大山 力	泌尿器科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
対面積効果の高い皮膚移植法(微細立方体皮膚移植法)の開発に関する研究	漆館 聡志	形成外科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
蛍光標識グルコース誘導体の消化管癌診断への応用	福田 眞作	消化器血液内科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
TRPV3の遺伝子異常から掌跖角化症に至る分子機構	澤村 大輔	皮膚科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
発達障害とトラウマ性発達障害の鑑別およびトラウマへの治療効果判定に関する研究	中村 和彦	神経精神医学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
血液型糖鎖抗原に結合する新規ペプチドによるABO不適合腎移植の拒絶抑制法の開発	米山 徹	先進移植再生医学講座	600,000	補委 日本学術振興会
卵巣癌に対する腫瘍壊死因子受容体を介した新しい治療法の研究	重藤 龍比古	産科婦人科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
骨折リスク評価ツール・FRAXを取り入れた効果的な骨粗鬆症検診システム構築の研究	飯野 香理	産科婦人科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
バイオマーカーを指標としたアルツハイマー病の治療法開発と臨床応用	若佐谷 保仁	脳神経内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
尿沈渣中の炎症関連分子mRNA発現パターンによる腎糸球体病変診断法の開発	敦賀 和志	小児科学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
ニトログリセリンの腫瘍血管拡張作用に基づく放射線増感作用に関する検討	廣瀬 勝己	放射線科学講座	200,000	補委 日本学術振興会
うつ病における自殺企図の心理社会的機序の解明と予防法の開発	大里 絢子	神経精神医学講座	900,000	補委 日本学術振興会
時計遺伝子発現を基盤とした腫瘍血管新生阻害薬によるヒト乳癌の増殖抑制	諸橋 聡子	病理生命科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
麻酔薬ケタミンのNatural Killer cell活性に与える影響	丹羽 英智	麻酔科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
酸化ストレスを指標とした網膜色素変性の新規治療法の評価	伊藤 忠	眼科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
ダウン症に合併するTAMをモデルとしたがんの発症と退縮に関わるエピジェネティクスの解析	伊藤 悦朗	小児科学講座	3,500,000	補委 科学技術振興機構
網膜色素変性症モデルにおけるカルバイン阻害ペプチドの普遍的な薬効評価とさらなる薬効性の向上	尾崎 拓	眼科学講座	900,000	補委 科学技術振興機構
小児がん等がん調査事業	伊藤 悦朗	小児科学講座	4,000,000	補委 青森県
疾患診断用全自動糖鎖解析装置の活用・普及促進	大山 力	泌尿器科学講座	240,000	補委 国立大学法人北海道大学
認知症臨床研究・治験ネットワークの構築とネットワークを利用した認知症臨床研究の推進に関する研究	東海林 幹夫	脳神経内科学講座	1,000,000	補委 独立行政法人国立長寿医療研究センター
更年期女性のQOLに与えるイソフラボンの効果	水沼 英樹	産科婦人科学講座	5,950,000	補委 京都府立医科大学
金属射出成形法による生体材料製品の開発	石橋 恭之	整形外科科学講座	1,070,000	補委 科学技術振興機構
糖転移酵素を指標に前立腺癌の悪性度を判定し患者個別の至適治療計画を作成する方法	大山 力	泌尿器科学講座	1,307,693	補委 科学技術振興機構
前十字靭帯損傷膝の前方不安定性の定量的評価に貢献する携帯型医療関連機器の開発・改良	石橋 恭之	整形外科科学講座	400,000	補委 青森県
前立腺特異抗原を凌駕する糖鎖標的の前立腺癌診断ツールの開発と臨床応用(試験研究費)	大山 力	泌尿器科学講座	2,307,693	補委 科学技術振興機構
平成25年度弘前市5歳児発達健診事業委託	中村 和彦	神経精神医学講座	3,000,000	補委 弘前市

小計 27

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
障害児者医療従事者確保に係る特別研修及び特別研究	石橋 恭之	整形外科科学講座	20,000,000	補委 青森県
周産期医療従事者増加に係る調査研究	伊藤 悦朗	小児科学講座	10,000,000	補委 青森県
周産期医療従事者増加に係る調査研究	水沼 英樹	産科婦人科学講座	10,000,000	補委 青森県
災害医療訓練プログラム策定業務	浅利 靖	救急・災害医学講座	2,700,000	補委 青森県
災害医療人材育成業務委託	浅利 靖	救急・災害医学講座	2,000,000	補委 青森県
前立腺特異抗原を凌駕する糖鎖標的の前立腺癌診断ツールの開発と臨床応用(技術移転調査費)	大山 力	泌尿器科学講座	500,000	補委 科学技術振興機構
HLA-A24陽性でドセタキセル不適格再燃前立腺癌に対するテーラーメイド癌ペプチドワクチン療法の第Ⅱ相臨床試験	大山 力	泌尿器科学講座	76,924	補委 久留米大学
非弁膜症性心房細動患者における抗血栓療法の実態調査	佐々木 真吾	不整脈先進治療学講座	38,470	補委 国立大学法人京都大学
癌細胞表面に発現した分岐型O-グリカンによる宿主免疫逃避機構の解明	坪井 滋	泌尿器科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
Notch/Jagged-1シグナルを介した肝線維化と肝再生との病態連繋の解明	三上 健一郎	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
ダウン症候群関連急性リンパ性白血病における細胞増殖機構の解明	照井 君典	小児科	1,100,000	補委 日本学術振興会
皮膚腫瘍におけるメルセル細胞ポリオマーウィルスの病原性の証明	金子 高英	皮膚科	800,000	補委 日本学術振興会
ウイルス感知レセプターの自然免疫力を活用する新規癌療法の確立	松崎 康司	皮膚科	1,300,000	補委 日本学術振興会
ガンナイフとグリオーマ細胞吸着療法を組み合わせた効率的腫瘍根絶療法の基礎研究	浅野 研一郎	脳神経外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症における脊柱靭帯および皮膚由来細胞の骨化機序の解明	沼沢 拓也	整形外科科学講座	300,000	補委 日本学術振興会
麻酔・手術後の睡眠・認知障害機序と治療法の研究:覚醒、回復、周術期トータルへ	榎方 哲也	麻酔科	1,200,000	補委 日本学術振興会
ヒアルロン酸をキートンに新たな早産予知と治療に挑む	伊東 麻美	産科婦人科	1,400,000	補委 日本学術振興会
院内がん登録データによる青森県がん患者の動態の基礎的研究	松谷 秀哉	総合医学教育講座	300,000	補委 日本学術振興会
認知症疾患のシナプスを標的とした病態解明と治療法の開発	瓦林 毅	神経内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
パピヨン・ルフェーブル症候群のセリンプロテアーゼ活性化障害及び角化亢進要因の検討	滝吉 典子	皮膚科	1,200,000	補委 日本学術振興会
単色エックス線の物質分析法を用いた放射線治療における全く新たな予後予測法の開発	青木 昌彦	放射線部	1,300,000	補委 日本学術振興会
末梢動脈送血法の数理生物学的解析による理論体系の構築	福田 和歌子	呼吸器外科, 心臓血管外科	500,000	補委 日本学術振興会
妊娠の成立と維持に関する免疫担当細胞の新しい機能	福井 淳史	産科婦人科	1,100,000	補委 日本学術振興会
クロマチン免疫沈降・シーケンス法による変異GATA1標的シス・エレメントの検索	土岐 力	小児科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
皮膚センチネルリンパ節の核医学的検出における新たな評価法とリンパ解剖マップ作成	三浦 弘行	放射線科	1,100,000	補委 日本学術振興会
網膜色素変性に対する新規視細胞保護療法の展開	目時 友美	眼科	1,500,000	補委 日本学術振興会
スピラレル法を用いた皮膚バリアー機能を簡便に測定する画期的なシステム確立	澤村 大輔	皮膚科学講座	2,900,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
癌特異的分子アネキシンを標的とした泌尿器癌化学療法の開発	畠山 真吾	泌尿器科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
シクロスポリンによる制御性T細胞を介したTGF-βの発現調節	櫻庭 裕丈	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
新規遺伝子増幅法による簡便・迅速な疥癬診断法の臨床応用と薬剤耐性虫の同定	皆川 智子	皮膚科	1,300,000	補委 日本学術振興会
扁平上皮癌の発育進展および放射線感受性に関する時計遺伝子DECの機能	清野 浩子	病理生命科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
一般住民に対する大規模疫学調査による聴覚障害とその関連因子の検討	佐々木 亮	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
トレハロース点眼ヒアルロン酸膜併用による濾過胞維持の新規治療法の開発	宮川 靖博	眼科	1,600,000	補委 日本学術振興会
RPE65遺伝子異常に対する9-シス-レチナールによる新規治療法の開発	鈴木 香	眼科	1,600,000	補委 日本学術振興会
悪性黒色腫に対するトレハロースの増殖抑制作用に関する基礎的研究	工藤 孝志	地域医療学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
冠縮性狭心症動物モデルにおけるカルシウムシグナル伝達機構の解明	横田 貴志	高度救命救急センター	600,000	補委 日本学術振興会
腎系球体上皮細胞におけるCD80発現の制御機構についての研究	島田 美智子	循環器内科, 呼吸内科, 腎臓内科	900,000	補委 日本学術振興会
LEMD3異常から結合織の増生に至る新しい分子機構の解明	是川 あゆ美	皮膚科	800,000	補委 日本学術振興会
ケラチン6c遺伝子異常による掌跖角化症の解析	赤坂 英二郎	皮膚科	1,500,000	補委 日本学術振興会
統合失調症患者における肥満発症メカニズムの解明	菅原 典夫	神経科精神医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
金属マーカーを用いない非侵襲的ハイブリッド型マーカーレス動態追尾照射の基礎的研究	川口 英夫	放射線科	900,000	補委 日本学術振興会
照射後血中オステオポンチンを指標としたHIF-1阻害剤併用放射線治療法の開発	佐藤 まり子	放射線科	1,400,000	補委 日本学術振興会
ロボット支援下手術が及ぼす眼動脈血流への影響	工藤 隆司	麻酔科	1,000,000	補委 日本学術振興会
糖転移酵素を分子標的とする膀胱癌治療法の実験的研究	鈴木 裕一郎	集中治療部	600,000	補委 日本学術振興会
膀胱癌の浸潤機構におけるinvadopodiaの意義と治療応用	山本 勇人	泌尿器科	700,000	補委 日本学術振興会
緑内障性神経節細胞死に対する新たな分子標的療法の研究	尾崎 拓	眼科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
口腔癌の癌微小環境における時計遺伝子DECの分子機構	古舘 健	歯科口腔外科	600,000	補委 日本学術振興会
化学療法誘発口腔粘膜炎症制御に向けたRIG-Iとがん関連線維芽細胞の機構解明	久保田 耕世	歯科口腔外科	2,000,000	補委 日本学術振興会
ACE阻害剤による記憶保持増強効果の解明	金澤 佐知子	薬剤部	400,000	補委 日本学術振興会
肥満における血清中高分子量アンジオテンシンノーゲン(AGT)の発現変化	下山 律子	薬剤部	400,000	補委 日本学術振興会
呼吸ガス測定によるバクテリアセル点滴後のアルコール残存量評価とその改善方法の検討	小田桐 奈央	薬剤部	300,000	補委 日本学術振興会

小計 24

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計 103



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Takiyoshi N	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Papillon-Lefevre syndrome: Impact of cathepsin C activation on the phenotypic expression.	Hirosaki Med J 64(1); 65-70: 2013.
2	Kaneko T	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Amplification of Papillomavirus Oncogene Transcripts Assay for Bowenoid Papulosis.	International Journal of Clinical Medicine Vol.4 No.10, October 23, 2013, in press
3	Kaneko T	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Intralymphatic Histiocytosis with Rheumatoid Arthritis: Possible Association with the Joint Involvement.	Case Reports in Clinical Medicine Vol.3 No.3, March 13, 2014
4	Tanaka H	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital Department of School Health Science, Faculty of Education, Hirosaki	Efficacy of mizoribine-tacrolimus-based induction therapy for pediatric lupus nephritis.	Lupus. 2014 Mar 20;23(8):813-818. [Epub ahead of print]
5	Ozaki T	Department of Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University. Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Decrease of ATP by mitochondrial m-calpain inhibitory peptide in the rat retinas.	Cell Struct Funct. 2013;38(2):207-23. Epub 2013 Aug 20.
6	Hirota K	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	A worrying decline in anesthesia journal publications from Japan.	J Anesth. 2013 Jun;27(3):323-4. doi: 10.1007/s00540-012-1554-8. Epub 2013 Jan 23.
7	Ozaki T	Department of Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University. Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Attenuation of ERG response by mitochondrial m-calpain inhibiting peptide. Cell Structure and Function	Cell Structure and Function 38(2), 205-231, 2013. Doi:10.1247/csf.13008. Epub 2013 Aug 20.
8	Kageyama K	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine Hirosaki.	Regulation of gonadotropins by corticotropin-releasing factor and urocortin.	Front Endocrinol (Lausanne). 2013;4:12. doi: 10.3389/fendo.2013.00012. Epub 2013 Feb 20.
9	Nakamura Y	Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Rotational acetabular osteotomy with resection of the capital drop and double floor for advanced osteoarthritis of the hip.	Hip Int. 2013 Mar-Apr;23(2):123-8. doi: 10.5301/hipint.5000008 . Epub 2013 Jan 31.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
10	Chiba Nao	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Severe post-streptococcal acute glomerulonephritis and periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and cervical adenitis syndrome.	Pediatr Int. 2013 Apr;55(2):259-61. doi: 10.1111/ped.12077.
11	Fukuda W	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine .	Management of Infective Endocarditis with Cerebral Complications.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014;20(3):229-36. Epub 2013 Apr 5.
12	Sugawara N	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Body mass index and quality of life among outpatients with schizophrenia in Japan. .	BMC Psychiatry. 2013 Apr 9;13:108. doi: 10.1186/1471-244X-13-108.
13	Yasui-Furukori N	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Worsened hypertension control induced by aripiprazole.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2013;9:505-7. doi: 10.2147/NDT.S43950. Epub 2013 Apr 15.
14	Sasaki K	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Revisit of Typical Counterclockwise Atrial Flutter Wave in the ECG: Electroanatomic Studies on the Determinants of the Morphology.	Pacing Clin Electrophysiol. 2013 Aug;36(8):978-87. doi: 10.1111/pace.12129. Epub 2013 Apr 17.
15	Toki T	Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Naturally occurring oncogenic GATA1 mutants with internal deletions in transient abnormal myelopoiesis in Down syndrome.	Blood. 2013 Apr 18;121(16):3181-4. doi: 10.1182/blood-2012-01-405746. Epub 2013 Feb 25.
16	Nakai K	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Mild hypercapnia with hyperventilation attenuates recovery from anesthesia in elderly patients.	J Anesth. 2013 Oct;27(5):712-9. doi: 10.1007/s00540-013-1617-5. Epub 2013 Apr 24.
17	Hashimoto Y	Oyokyo Kidney Research Institute, Hirosaki Hospital. Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of	Gene expression changes in venous segment of overflow arteriovenous fistula.	Int J Nephrol. 2013;2013:980923. doi: 10.1155/2013/980923. Epub 2013 Apr 27.
18	Shibutani, Koichi	Department of Radiology and Radiation Oncology, Hirosaki University School of	Efficacy and Safety of Preoperative Portal Vein Embolization with Microfibrillar Collagen for Hepatobiliary	Hirosaki Med J 2013 64 (1), 1-14
19	Sasaki E	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Serum hyaluronan levels increase with the total number of osteoarthritic joints and are strongly associated with the presence of knee and finger osteoarthritis.	Int Orthop. 2013 May;37(5):925-30. doi: 10.1007/s00264-013-1849-x. Epub 2013 Mar 19.
20	Maniwa K	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Accuracy of image-free computer navigated total knee arthroplasty is not compromised in severely deformed varus knees.	J Arthroplasty. 2013 May;28(5):802-6. doi: 10.1016/j.arth.2012.09.014. Epub 2013 Feb 27.
21	Ohishi H	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Spontaneous femoral neck fracture associated with a low serum level of vitamin D.	J Orthop Sci. 2013 May;18(3):496-9. doi: 10.1007/s00776-011-0171-y. Epub 2011 Nov 5.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
22	Hirose K	Department of Radiology and Radiation Oncology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Megakaryocytic differentiation in human chronic myelogenous leukemia K562 cells induced by ionizing radiation in combination with phorbol 12-myristate 13-acetate.	J Radiat Res. 2013 May;54(3):447-52. doi: 10.1093/jrr/rrs127. Epub 2013 Jan 7.
23	Hirose K	Department of Radiology and Radiation Oncology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Effects of radiation on the maturation of megakaryocytes.	J Radiat Res. 2013 May;54(3):438-46. doi: 10.1093/jrr/rrs125. Epub 2012 Dec 21.
24	Kato K	Department of Orthopedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Novel motion preservation device for atlantoaxial instability.	J Spinal Disord Tech. 2013 May;26(3):E107-11. doi: 10.1097/BSD.0b013e318271751b.
25	Watanuki Y	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Involvement of Nurr-1/Nur77 in corticotropin-releasing factor/urocortin1-induced tyrosinase-related protein 1 gene transcription in human melanoma HMV-II cells.	Mol Cell Endocrinol. 2013 May 6;370(1-2):42-51. doi: 10.1016/j.mce.2013.01.022. Epub 2013 Feb 14
26	Daitoku K	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Right Pulmonary Artery Obstruction Is a Long-term Complication of Aortopulmonary Window Repair.	Congenit Heart Dis. 2014 Mar-Apr;9(2):E58-60. doi: 10.1111/chd.12074. Epub 2013 May 7.
27	Niwa H	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Can anesthetic techniques or drugs affect cancer recurrence in patients undergoing cancer surgery?	J Anesth. 2013 Oct;27(5):731-41. doi: 10.1007/s00540-013-1615-7. Epub 2013 May 14.
28	Sato J	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine.	Long-term tumor-free survival case of congenital embryonal tumor with various pathological components.	Childs Nerv Syst. 2013 Jun;29(6):921-6. doi: 10.1007/s00381-013-2052-5. Epub 2013 Feb 21.
29	Fukuda I	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Shaggy and calcified aorta: surgical implications.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2013 Jun;61(6):301-13. doi: 10.1007/s11748-013-0203-y. Epub 2013 Feb 13.
30	Sukekawa T	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Coupling factor 6 enhances the spontaneous microaggregation of platelets by decreasing cytosolic cAMP irrespective of antiplatelet therapy.	Hypertens Res. 2013 Jun;36(6):520-7. doi: 10.1038/hr.2012.231. Epub 2013 Feb 7.
31	Yokoyama Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Investigation of the clinicopathological features of fallopian tube malignancy.	Oncol Rep. 2013 Jul;30(1):79-84. doi: 10.3892/or.2013.2439. Epub 2013 Apr 30.
32	Naraoka M	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine.	Suppression of the Rho/Rho-Kinase Pathway and Prevention of Cerebral Vasospasm by Combination Treatment with Statin and Fasudil After Subarachnoid Hemorrhage in	Transl Stroke Res. 2013 Jun;4(3):368-74. doi: 10.1007/s12975-012-0247-9. Epub 2013 Jan 29.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
33	Chin S	Department of Pharmacology, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Immunohistochemical localization of mesenchymal stem cells in ossified human spinal ligaments.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Jul 12;436(4):698-704. doi: 10.1016/j.bbrc.2013.06.019. Epub 2013 Jun 14.
34	Hatakeyama S	Department of Urology, Hirosaki University School of Medicine.	Tumor targeting by a carbohydrate ligand-mimicking Peptide.	Methods Mol Biol. 2013;1022:369-86. doi: 10.1007/978-1-62703-465-4_28
35	Tsuchimine S	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	No Association between a Polymorphism in the Serotonin Receptor 2B (HTR2B) Gene and Personality Traits in Healthy Japanese Subjects.	Neuropsychobiology. 2013;68(1):59-62. doi: 10.1159/000350998. Epub 2013 Jun 15.
36	Ishioka M	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Neuroleptic Malignant Syndrome Induced by Lamotrigine.	Clin Neuropharmacol. 2013 Jul-Aug;36(4):131-2. doi: 10.1097/WNF.0b013e318294799a.
37	Sasaki S	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Change with increasing age in control of the lower limbs during jump-landing in adolescents: a 5-year prospective study.	J Orthop Sci. 2013 Sep;18(5):774-81. doi: 10.1007/s00776-013-0420-3. Epub 2013 Jun 18.
38	Nakada Y	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	An Adult Case of 22q11.2 Deletion Syndrome Diagnosed in a 36-year-old Woman with Hypocalcemia Caused by Hypoparathyroidism and	Intern Med. 2013;52(12):1365-8.
39	Kondo N	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Rising awareness of the relationship between infective endocarditis and atopic dermatitis.	Circ J. 2013;77(7):1693-4. Epub 2013 May 30.
40	Saito Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Hirosaki University School of Medicine.	Cognitive function and number of teeth in a community-dwelling population in Japan.	Ann Gen Psychiatry. 2013 Jun 24;12(1):20. doi: 10.1186/1744-859X-12-20.
41	Yasui-Furukori N	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Association between plasma brain-derived neurotrophic factor levels and personality traits in healthy Japanese subjects.	Psychiatry Res. 2013 Nov 30;210(1):220-3. doi: 10.1016/j.psychres.2013.05.015. Epub 2013 Jun 24.
42	Tanaka H	Department of School Health Science, Hirosaki University Faculty of Education. Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Inflammatory Chemokine Expression via Toll-Like Receptor 3 Signaling in Normal Human Mesangial Cells.	Clin Dev Immunol. 2013;2013:984708. doi: 10.1155/2013/984708. Epub 2013 Jun 26.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
43	Saito Y	Department of Social Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Aomori, Japan. Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Aomori, Japan.	The influence of blood glucose on neutrophil function in individuals without diabetes.	Luminescence. 2013 Jul-Aug;28(4):569-73. doi: 10.1002/bio.2495. Epub 2013 Mar 19.
44	Sasaki E	Department of Social Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Effect of glutamine supplementation on neutrophil function in male judoists.	Luminescence. 2013 Jul-Aug;28(4):442-9. doi: 10.1002/bio.2474. Epub 2013 Jan 24.
45	Tanaka H	Department of Anatomic Pathology, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Course of Medical Sciences, Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate	Clinical application of immunocytochemical detection of ALK rearrangement on cytology slides for detection or screening of lung adenocarcinoma.	Lung Cancer. 2013 Jun;80(3):289-92. doi: 10.1016/j.lungcan.2013.03.006. Epub 2013 Mar 21
46	Sugiyama N	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	In vivo selection of high-metastatic subline of bladder cancer cell and its characterization.	Oncol Res. 2013;20(7):289-95.
47	Nagaki T	Department of Otorhinolaryngology, Hirosaki University School of Medicine.	Effects of cholesterol alterations are mediated via G-protein-related pathways in outer hair cells.	Pflugers Arch. 2013 Jul;465(7):1041-9. doi: 10.1007/s00424-013-1230-3. Epub 2013 Feb 17.
48	Suzuki Y	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan.	Effects of intravitreal injection of bevacizumab on inflammatory cytokines in the vitreous with proliferative diabetic retinopathy.	Retina. 2014 Jan;34(1):165-71. doi: 10.1097/IAE.0b013e3182979df6.
49	Sugawara N	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Relationship Between Dietary Patterns and Cognitive Function in a Community-Dwelling Population in Japan.	Asia Pac J Public Health. 2013 Jul 15. [Epub ahead of print] XX(X)1-10 DOI:10.1177/1010539513490194
50	Fukuda W	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Screw in the Aorta: Minimally Invasive Graft Replacement for Chronic Aortic Erosion by Spinal Instrument.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2013;19(4):320-2. Epub 2012 Nov 15.
51	Nakajima K	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Signet-ring cutaneous squamous cell carcinoma arising on the back of the finger.	Case Rep Dermatol. 2013 Aug 10;5(2):215-8. doi: 10.1159/000354536. eCollection 2013.
52	Saito J	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Corrected right ventricular end-diastolic volume and initial distribution volume of glucose correlate with cardiac output after cardiac surgery.	J Anesth. 2013 Aug;27(4):512-20. doi: 10.1007/s00540-013-1558-z. Epub 2013 Mar 2.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
53	Kudo T	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Quantitative measurement of blood remifentanil concentration: development of a new method and clinical application.	J Anesth. 2013 Aug;27(4):615-7. doi: 10.1007/s00540-012-1549-5. Epub 2013 Jan 6.
54	Nishizaki F	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Acute myocardial infarction cases by a floating thrombus in the ascending aorta: Aroke of CD34-positive endothelial cells.	Journal of Cardiology Cases Volume 8; Issue 2, Pages e88-e90, August 2013
55	Sugimoto K	Department of Laboratory Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan. Diabetes Center, Ohta Nishinouchi Hospital,	The impact of low-dose insulin on peripheral nerve insulin receptor signaling in streptozotocin-induced diabetic rats.	PLoS One. 2013 Aug 30;8(8):e74247. doi: 10.1371/journal.pone.0074247.
56	Ozaki T	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan. Department of Biochemistry and Molecular Biology, Hirosaki University Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki, Japan.	Inhibitory Peptide of Mitochondrial $\mu$ -Calpain Protects against Photoreceptor Degeneration in Rhodopsin Transgenic S334ter and P23H Rats.	PLoS One. 2013 Aug 9;8(8):e71650. doi: 10.1371/journal.pone.0071650. eCollection 2013.
57	Tatsuta T	Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Multiple gastric g1 neuroendocrine tumors with venous and lymphatic invasion.	Intern Med. 2013;52(15):1697-701. Epub 2012 Mar 1.
58	Ozaki T	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan. Department of Biochemistry and Molecular Biology, Hirosaki University Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki, Japan.	Cisplatin Binding and Inactivation of Mitochondrial Glutamate Oxaloacetate Transaminase in Cisplatin-Induced Rat Nephrotoxicity.	Biosci Biotechnol Biochem. 2013;77(8):1645-9. Epub 2013 Aug 7.
59	Kaneda A	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Psychiatry, Kuroishi-Akebono Hospital.	Comparing the influences of age and disease on the Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia in Japanese patients with schizophrenia.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2013;9:1203-8. doi: 10.2147/NDT.S43280. Epub 2013 Aug 14.
60	Wakiya T	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Evaluation of the Usefulness of the Indocyanine Green Clearance Test for Chemotherapy-Associated Liver Injury in Patients with Colorectal Cancer Liver	Ann Surg Oncol. 2014 Jan;21(1):167-72.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
61	Ikeda F	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Single dose of rituximab for pediatric-onset refractory systemic lupus erythematosus.	Lupus. 2013 Dec;22(14):1541-3. doi: 10.1177/0961203313502111. Epub 2013 Aug 21.
62	Ohyama C	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine plus carboplatin followed by immediate radical cystectomy for muscle-invasive bladder cancer.	Int J Urol. 2014 Jan;21(1):3-4. doi: 10.1111/iju.12230. Epub 2013 Aug 22.
63	Narita I	Department of Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	An adult case of nephrotic syndrome presenting with pulmonary artery thrombosis: a case report.	J Med Case Rep. 2013 Aug 23;7:215. doi: 10.1186/1752-1947-7-215.
64	Sasaki E	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Relationship between patient-based outcome score and conventional objective outcome scales in post-operative total knee arthroplasty patients.	2014 Feb;38(2):373-8. doi: 10.1007/s00264-013-2064-5. Epub 2013 Aug 24.
65	Tomita T	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Visual hallucinations during duloxetine treatment in a patient with major depressive disorder.	Clin Neuropharmacol. 2013 Sep-Oct;36(5):170-2. doi: 10.1097/WNF.0b013e3182a124cb.
66	Kimura M	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Validation of accuracy of three-dimensional left atrial CartoSound™ and CT image integration: influence of respiratory phase and cardiac cycle.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2013 Sep;24(9):1002-7. doi: 10.1111/jce.12170. Epub 2013 May 2.
67	Katayama K	Department of Neurosurgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Translucent Three-Dimensional CT is Useful in Considering the Treatment Strategy for the Penetrating Skull Base Injury With a Metal Rod: Case Report.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2013;53(9):613-5.
68	Fukuda I	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Management of right heart thrombi associated with acute pulmonary embolism: is there no room for surgical embolectomy?	Anadolu Kardiyol Derg. 2013 Sep;13(6):534-5. doi: 10.5152/akd.2013.197. Epub 2013 Sep 10
69	Yokoyama Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Recurrent epithelial ovarian cancer and hormone therapy.	World J Clin Cases. 2013 Sep 16;1(6):187-190.
70	Yamagata S	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Regulation of corticotropin-releasing factor and urocortin 2/3 mRNA by leptin in hypothalamic N39 cells.	Peptides. 2013 Dec;50:1-7. doi: 10.1016/j.peptides.2013.09.010. Epub 2013 Sep 29.
71	Kumagai G	Department of Neurological Surgery, The Miami Project to Cure Paralysis, University of Miami Miller School of Medicine. Department of Orthopedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of	Genetically Modified Mesenchymal Stem Cells (MSCs) promote axonal regeneration and prevent hypersensitivity after Spinal Cord Injury.	Exp Neurol. 2013 Oct;248:369-80. doi: 10.1016/j.expneurol.2013.06.028. Epub 2013 Jul 12.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
72	Wakiya T	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Decreased portal vein flow during Kawasaki disease in a liver transplant patient.	Pediatr Int. 2013 Oct;55(5):e119-22. doi: 10.1111/ped.12138.
73	Yasui-Furukori N	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Interaction between paliperidone and carbamazepine.	Ther Drug Monit. 2013 Oct;35(5):649-52. doi: 10.1097/FTD.0b013e3182966c2f.
74	Shimamura N	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine.	A model of rat embolic cerebral infarction with a quantifiable, autologous arterial blood clot.	Transl Stroke Res. 2013 Oct;4(5):564-70. doi: 10.1007/s12975-013-0262-5. Epub 2013 May 25.
75	Hatakeyama S	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Prognosis of elderly Japanese patients aged $\geq 80$ years undergoing hemodialysis.	ScientificWorldJournal. 2013 Oct 9;2013:693514. doi: 10.1155/2013/693514. eCollection 2013.
76	Nomura A	Department of Pharmacology, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	CD34-negative mesenchymal stem-like cells may act as the cellular origin of human aortic valve calcification.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Nov 1;440(4):780-5. doi: 10.1016/j.bbrc.2013.10.003. Epub 2013 Oct 10.
77	Hatakeyama S	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Prognostic benefit of surgical management in renal cell carcinoma patients with thrombus extending to the renal vein and inferior vena cava: 17-year experience at a single center.	BMC Urol. 2013 Oct 14;13:47. doi: 10.1186/1471-2490-13-47.
78	Hatakeyama S	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Serum N-glycan alteration associated with renal cell carcinoma detected by high throughput glycan analysis.	J Urol. 2014 Mar;191(3):805-13. doi: 10.1016/j.juro.2013.10.052. Epub 2013 Oct 16.
79	Aizawa T	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Mizoribine selectively attenuates monocyte chemoattractant protein-1 production in cultured human glomerular mesangial cell: A possible benefit of its use in the treatment of lupus nephritis.	Nephrology (Carlton). 2014 Jan;19(1):47-52. doi: 10.1111/nep.12171.
80	Nishizaki F	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Re-elevation of T-wave from day 2 to day 4 after successful percutaneous coronary intervention predicts chronic cardiac systolic dysfunction in patients with first anterior acute	Heart Vessels. 2013 Nov;28(6):704-13. doi: 10.1007/s00380-012-0313-y. Epub 2012 Dec 22.
81	Masahara H	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan.	Exclusion of influences of ARMS2 polymorphisms on the central visual field in retinitis pigmentosa.	Ophthalmologica. 2014;231(1):51-7. doi: 10.1159/000355093. Epub 2013 Nov 9.
82	Kimura N	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Liver Transplantation Versus Conservative Treatment for Adult-Onset Type II Citrullinemia: Our Experience and a Review of the Literature.	Transplant Proc. 2013 Nov;45(9):3432-7. doi: 10.1016/j.transproceed.2013.06.016.



番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
83	Endo T	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Low serum eicosapentaenoic acid level is a risk for ventricular arrhythmia in patients with acute myocardial infarction: a possible link to J-waves.	Heart Vessels. 2013 Nov 9. [Epub ahead of print]Received: 9 July 2013 / Accepted: 25 October 2013 DOI 10.1007/s00380-013-0435-x
84	Sugawara N	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Lithium in tap water and suicide mortality in Japan.	Int J Environ Res Public Health. 2013 Nov 12;10(11):6044-8. doi: 10.3390/ijerph1011604
85	Tsuchimine S	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Differential Effects of the Catechol-O-Methyltransferase Val158Met Genotype on the Cognitive Function of Schizophrenia Patients and Healthy Japanese Individuals.	PLoS One. 2013 Nov 25;8(11):e76763. doi: 10.1371/journal.pone.0076763.
86	Minakawa S	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Mutational analysis on 16 Japanese population cases with epidermolysis bullosa simplex.	J Dermatol Sci. 2013 Dec;72(3):330-2. doi: 10.1016/j.jdermsci.2013.08.001. Epub 2013 Aug 12.
87	Watanabe S	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	A young girl with refractory intestinal Behçet's disease: a case report and review of literatures on pediatric cases who received an anti-tumor necrosis factor agent.	Rheumatol Int. 2013 Dec;33(12):3105-8. doi: 10.1007/s00296-012-2628-5. Epub 2012 Dec 25.
88	Nakazawa M	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Long-Term Effects of Nilvadipine against Progression of the Central Visual Field Defect in Retinitis Pigmentosa: An Extended Study.	Biomed Res Int. 2013;2013:585729. doi: 10.1155/2013/585729. Epub 2013 Nov 12.
89	Shimoyama T	Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Helicobacter pylori Infection Is Associated with a Decreased Risk of Tooth Loss in Healthy Japanese Men.	Jpn J Infect Dis. 2013;66(6):489-92.
90	Kageyama K	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Endocrinology, Metabolism, and Infectious Diseases, Hirosaki University School of Medicine & Hospital.	Stimulation of corticotropin-releasing factor gene expression by FosB in rat hypothalamic 4B cells.	Peptides. 2014 Jan;51:59-64. doi: 10.1016/j.peptides.2013.11.004. Epub 2013 Nov 15.
91	Koie T	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Presurgical therapy with axitinib for advanced renal cell carcinoma: a case report.	BMC Res Notes. 2013 Nov 24;6(1):484. doi: 10.1186/1756-0500-6-484.
92	Aizawa T	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Urinary Fractalkine and Monocyte Chemoattractant Protein-1 as Possible Predictors of Disease Activity of Childhood Glomerulonephritis.	Tohoku J Exp Med. 2013;231(4):265-270.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
93	Sun R	Department of Medical Oncology, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Respiratory Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine. Division of Pediatric Hematology, Department of Pediatrics, Shengjing Hospital of China	A change in the number of CCSP(pos)/SPC(pos) cells in mouse lung during development, growth, and repair.	Respir Investig. 2013 Dec;51(4):229-40. doi: 10.1016/j.resinv.2013.04.006. Epub 2013 Jun 4.
94	Sasaki Shingo	Department of Advanced Management of Cardiac Arrhythmias, Japan.	Telediagnosis of heart failure with continuous intrathoracic impedance monitoring by Medtronic CareLink Network: Importance of the elevation pattern of OptiVol Fluid Index	Journal of Arrhythmia, 2013. 29(6): 347-352
95	Niwa H	From the Department of Anaesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Finger pulse oximetry detects an intense congestion: A case report.	Eur J Anaesthesiol. 2014 Feb;31(2):121-3. doi: 10.1097/EJA.0b013e328363196a.
96	Matsubara A	Department of Otorhinolaryngology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	An experimental study of inner ear injury in an animal model of eosinophilic otitis media.	Acta Otolaryngol. 2014 Mar;134(3):227-32. doi: 10.3109/00016489.2013.859395. Epub 2013 Dec 23.
97	Harada Y	Department of Pharmacology, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Osteogenic lineage commitment of mesenchymal stem cells from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament.	Biochem Biophys Res Commun. 2014 Jan 17;443(3):1014-20. doi: 10.1016/j.bbrc.2013.12.080. Epub 2013 Dec 19.
98	Shimoyama T	Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Stool antigen tests for the management of Helicobacter pylori infection.	World J Gastroenterol. 2013 Dec 7;19(45):8188-8191.
99	Kitayama M	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Medicine Hospital.	Role of regional anesthesia in the enhanced recovery after surgery program.	J Anesth. 2014 Feb;28(1):152-5. doi: 10.1007/s00540-013-1772-8. Epub 2013 Dec 28.
100	Tomita T	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine.	Relationships between Vascular Endothelial Growth Factor Levels and Temperament and Character Inventory Traits in Healthy Japanese Subjects.	Neuropsychobiology. 2014;69(1):1-5. doi: 10.1159/000356233. Epub 2013 Dec 31.
101	Tanaka H	Department of Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	The long-term survival of a thymic carcinoma patient treated with S-1: a case report and literature review.	Onco Targets Ther. 2013 Dec 27;7:87-90. doi: 10.2147/OTT.S54843.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
102	Hirakawa H	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Inhibitory effects of aromatase inhibitor on estrogen receptor- $\alpha$ positive ovarian cancer in mice.	J Ovarian Res. 2014 Jan 10;7(1):4. doi: 10.1186/1757-2215-7-4.
103	Tamura R	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	A case of small cell carcinoma of the vagina.	Rare Tumors. 2013 Dec 5;5(4):e58. doi: 10.4081/rt.2013.e58.
104	Hatakeyama S	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Serum N-glycan profiling predicts prognosis in patients undergoing hemodialysis.	ScientificWorldJournal. 2013 Dec 23;2013:268407. doi: 10.1155/2013/268407. eCollection 2013.
105	Sakuraba H	Department of Gastroenterology and Hematology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Prediction of Maintained Mucosal Healing in Patients with Crohn's Disease under Treatment with Infliximab Using Diffusion-Weighted Magnetic Resonance	Digestion. 2014;89(1):49-54. doi: 10.1159/000356220. Epub 2014 Jan 20.
106	Yokoyama Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Decreased ARID1A expression is correlated with chemoresistance in epithelial ovarian cancer.	J Gynecol Oncol. 2014 Jan;25(1):58-63. doi: 10.3802/jgo.2014.25.1.58. Epub 2014 Jan 8.
107	Sugawara N	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine. Japanese Society of Clinical Neuropsychopharmacol	Psychiatrists' Attitudes toward Metabolic Adverse Events in Patients with Schizophrenia.	PLoS One. 2014 Jan 23;9(1):e86826. doi: 10.1371/journal.pone.0086826. eCollection 2014.
108	Iwamura H	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	A case of metastatic cancer with markedly elevated PSA level that was not detected by repeat prostate biopsy.	BMC Res Notes. 2014 Jan 29;7(1):64. doi: 10.1186/1756-0500-7-64.
109	Hirose C	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Efficacy of long-term multidrug therapy in a patient with focal segmental glomerulosclerosis.	Pediatr Int. 2014 Feb;56(1):129-30. doi: 10.1111/ped.12261.
110	Ito R	Department of Dentistry and Oral Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Periosteum-derived cells respond to mechanical stretch and activate Wnt and BMP signaling pathways.	Biomed Res. 2014;35(1):69-79.
111	Tsuchimine S	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Preanalysis Storage Conditions Influence the Measurement of Brain-Derived Neurotrophic Factor Levels in Peripheral Blood.	Neuropsychobiology. 2014;69(2):83-8. doi: 10.1159/000358061. Epub 2014 Feb 27
112	Hasui K.	Department of Gastroenterology and Hematology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Biologic Therapy Suppresses Subclinical Inflammation Identified by MRI in RA patients in Clinical Remission State	Hirosaki Med. J. 2014; 64, 2-4:119-126
113	Kudoh H	Department of Social Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	The Relationship between Muscle Damage and Reactive Oxygen Species Production Capability after Judo Exercise	Hirosaki Med. J. 2014; 64, 2-4:176-185

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
114	Takasugi K	Departments of Pathology and Bioscience, Hirosaki University Graduates School of Medicine. Department of Gastroenterology and Hematology, Hirosaki University Graduates School of Medicine.	Histopathological Characteristics of Laterally Spreading Tumor (LST) Type Early Colorectal Cancer	Hirosaki Med. J. 2014; 64, 2-4:158-169
115	Saito Y	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University School of Medicine.	Simultaneous repair of multiple aortic aneurysms: be courageous in minimally invasive era.	Ann Thorac Surg. 2014 Mar;97(3):1051-3. doi: 10.1016/j.athoracsur.2013.06.119.
116	Daitoku K	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Eradication of active infective endocarditis with submitral abscess infiltrating to annular calcification.	J Heart Valve Dis. 2013 Nov;22(6):859-61.
117	Sugawara N	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Comparison of predictive equations for resting energy expenditure among patients with schizophrenia in Japan.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Feb 28;10:427-32. doi: 10.2147/NDT.S58019. eCollection 2014.
118	Suzuki Y	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	The Operating Room During a Severe Earthquake: Lessons From the 2011 Great East Japan Earthquake.	Disaster Med Public Health Prep. 2014 Mar 11:1-7. [Epub ahead of print]
119	Takeuchi K	The Retina Service, Angiogenesis Laboratory, Massachusetts Eye and Ear Infirmary. Department of Ophthalmology, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, United States of America. Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Aomori, Japan	EGF-Like-Domain-7 Is Required for VEGF-Induced Akt/ERK Activation and Vascular Tube Formation in an Ex Vivo Angiogenesis Assay.	PLoS One. 2014 Mar 19;9(3):e91849. doi: 10.1371/journal.pone.0091849. eCollection 2014.
120	Hatayama Y	Department of Radiology, Hirosaki University School of Medicine.	Impact of dexamethasone, etoposide, ifosfamide and carboplatin as concurrent chemoradiotherapy agents for nasal natural killer/T-cell	Mol Clin Oncol. 2013 Jul;1(4):680-684. Epub 2013 May 17.
121	Yokoyama Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Redistribution of resistance and sensitivity to platinum during the observation period following treatment of epithelial ovarian cancer.	Mol Clin Oncol. 2014 Mar;2(2):212-218. Epub 2013 Dec 10.
122	Hagiwara K	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	A Case of Malignant Pheochromocytoma Detected during Fertility Treatment.	Case Rep Urol. 2014;2014:646743. doi: 10.1155/2014/646743. Epub 2014 Feb 5.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
123	Hatakeyama S	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Outcome Comparison of ABO-Incompatible Kidney Transplantation With Low-Dose Rituximab and ABO-Compatible Kidney Transplantation: A Single-Center Experience.	Transplant Proc. 2014 Mar;46(2):445-8. doi: 10.1016/j.transproceed.2013.09.036.
124	Oikawa M	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Department of Cardiology, Respiratory Medicine, and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of	BK Virus-Associated Urothelial Carcinoma of a Ureter Graft in a Renal Transplant Recipient: A Case Report.	Transplant Proc. 2014 Mar;46(2):616-9. doi: 10.1016/j.transproceed.2013.09.037.
125	Sato T	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Renal cell carcinoma detected by preoperative kidney transplant donor examination: a case report.	Transplant Proc. 2014 Mar;46(2):634-6. doi: 10.1016/j.transproceed.2013.11.022.
126	Watanabe S	Department of Pediatrics, Hirosaki University Hospital.	Glomerular expression of myxovirus resistance protein 1 in human mesangial cells: possible activation of innate immunity in the pathogenesis of lupus	Nephrology (Carlton). 2013 Dec;18(12):833-7. doi: 10.1111/nep.12155.
127	Sakihara S	Department of Endocrinology and Metabolism Hirosaki University Graduate School of Medicine.	A case of ectopic ACTH syndrome treated with intermittent administration of dopamine agonists.	Endocrinol Diabetes Metab Case Rep. 2014;2014:140001. doi: 10.1530/EDM-14-0001. Epub 2014 Mar 1.
128	Koie T	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Preoperative butyrylcholinesterase level as an independent predictor of overall survival in clear cell renal cell carcinoma patients treated with	ScientificWorldJournal. 2014 Mar 4;2014:948305. doi: 10.1155/2014/948305. eCollection 2014.
129	Takao KON	Department of Dentistry and Oral Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Role of type I- and type II-interferon in expression of melanoma differentiation-associated gene-5 in HSC-3 oral squamous carcinoma cells.	Biomed Res. 2014;35(1):9-16.
130	Hatakeyama S	Department of Urology, Graduate School of Medicine.	Switching hemodialysis patients from sevelamer hydrochloride to bicalomer: a single-center, non-randomized analysis of efficacy and effects on gastrointestinal symptoms and metabolic acidosis.	BMC Nephrol. 2013 Oct 12;14:222. doi: 10.1186/1471-2369-14-222.
131	Narita T	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Surgery without Blood Transfusion for Giant Paraganglioma in a Jehovah's Witness Patient.	Case Rep Oncol. 2014 Mar 27;7(1):233-8. doi: 10.1159/000360813. eCollection 2014.
132	Nakazawa M	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Therapy options for retinitis pigmentosa	Exp Opn Orphan Drug 11/2013; DOI:10.1517/21678707.2014.858596
133	Wataru KOBAYASHI	Department of Dentistry and Oral Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	A case of Oral Squamous Cell Carcinoma in Association with Dental Implants	J Oral Diag/Oral Med Vo1 26,No 3.349~353,October,2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
134	Imanishi K	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Post-transplant renal function and cardiovascular events are closely associated with the aortic calcification index in renal transplant recipients.	Transplant Proc. 2014 Mar;46(2):484-8. doi: 10.1016/j.transproceed.2013.09.039.
135	Matsubara E	Department of Neurology, Institute of Brain Science, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Disease modifying therapies for Alzheimer's disease targeting A $\beta$ oligomers: implications for therapeutic mechanisms.	Biomed Res Int. 2013;2013:984041. doi: 10.1155/2013/984041. Epub 2013 Aug 26.
136	Tanaka Y	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Chromophobe renal cell carcinoma with concomitant sarcomatoid transformation and osseous metaplasia: a case	BMC Urol. 2013 Dec 13;13:72. doi: 10.1186/1471-2490-13-72.
137	Yasui-Furukori Norio	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University.	Interaction between paliperidone extended release and TS-I $\oplus$ , an oral anticancer drug containing a 5-fluorouracil derivative, in a schizophrenic patient.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2013;9:317-20. doi: 10.2147/NDT.S41738. Epub 2013 Mar 3
138	Tetsu Tomita	Departments of Neuropsychiatry and Social Medicine, Hirosaki University Graduate School of	Sex-specific effects of subjective memory complaints with respect to cognitive impairment or depressive symptoms	Psychiatry Clin Neurosci. 2014 Mar;68(3):176-81.

計 138

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Toyoki Y <sup>※</sup> , Hakamada K <sup>※</sup> ,	<sup>※</sup> Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan.	FGF3/FGF4 amplification and multiple lung metastases in responders to sorafenib in hepatocellular carcinoma.	Hepatology 2013;57(4)1407-1415
2	Sawamura D <sup>※</sup> , Nakano H <sup>※</sup>	<sup>※</sup> Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan.	Congenital insensitivity to pain with anhidrosis presenting with palmo-plantar keratoderma.	Pediatr Dermatol. 2013 Nov;30(6):754-6. doi: 10.1111/j.1525-1470.2012.01833.x. Epub 2012 Sep 7.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
3	Wada, Naoko	Department of Social Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine / Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Effect of Initial Blood Glucose Level on Transient Physical Stress	Hirosaki Med. J.2013;64 N01:71-83, 2013
4	Ken Okumura <sup>※</sup>	<sup>※</sup> Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Target International Normalized Ratio Values for Preventing Thromboembolic and Hemorrhagic Events in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation.	Circ J. 2013;77(9):2264-70. Epub 2013 May 25.
5	Ken Okumura <sup>k</sup>	<sup>k</sup> Division of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	National survey of catheter ablation for atrial fibrillation: The Japanese catheter ablation registry of atrial fibrillation (J-	Journal of Arrhythmia 29(2013)221-227
6	Minakawa S <sup>※</sup> , Sawamura D <sup>※</sup>	<sup>※</sup> Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Hirosaki University, Hirosaki,	EPR spectroscopic investigation of psoriatic finger nails.	Skin Res Technol. 2013 Nov;19(4):450-3. doi: 10.1111/srt.12068. Epub 2013 Mar 22.
7	Nakano H <sup>※</sup> , Sawamura D <sup>※</sup>	<sup>※</sup> Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Expression of a mutated allele, non-reduced by aging, in a Japanese family with localized epidermolysis bullosa simplex due to a novel mutation, p.Arg169Gly, of keratin 5 gene.	Eur J Dermatol. 2013 Apr 1;23(2):267-9. doi: 10.1684/ejd.2013.1995.
8	Sawamura D <sup>1,2</sup>	Departments of Dermatology, <sup>1</sup> Hokkaido University Graduate School of Medicine, N15 W7, Sapporo 060-8638 and <sup>2</sup> Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki,	Long-term Follow-up of Cultured Epidermal Autograft in a Patient with Recessive Dystrophic Epidermolysis Bullosa.	Acta Derm Venereol. 2013 Jun 10. doi: 10.2340/00015555-1592. [Epub ahead of print]
9	Hatakeyama S <sup>C</sup>	<sup>a</sup> Department of Advanced Transplant and Regenerative Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine,	Attenuation of fibroblast growth factor signaling by poly -N-acetylglucosamine type glycans.	FEBS Lett. 2013 Oct 1;587(19):3195-201. doi: 10.1016/j.febslet.2013.07.056. Epub 2013 Aug 19.
10	Tsuruga K <sup>4</sup> , Tanaka H <sup>5</sup>	<sup>4</sup> Department of Pediatrics, Hirosaki University School of Medicine and Hospital, <sup>5</sup> Department of Pediatrics, Hirosaki University School of Medicine and Hospital.	Carnosic acid suppresses the production of amyloid- $\beta$ 1-42 and 1-43 by inducing an $\alpha$ -secretase TACE/ADAM17 in U373MG human astrocytoma cells.	Neurosci Res. 2014 Feb;79:83-93. doi: 10.1016/j.neures.2013.11.004. Epub 2013 Dec 1.
11	Asari Y <sup>5</sup> , Nigawara T <sup>6</sup>	<sup>5</sup> Department of Emergency and Disaster Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine. <sup>6</sup> Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Thyroid ultrasound findings in children from three Japanese prefectures: aomori, yamanashi and nagasaki.	PLoS One. 2013 Dec 23;8(12):e83220. doi: 10.1371/journal.pone.0083220.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	Fukuda A <sup>1,3</sup>	<sup>1)</sup> Physical Therapy in Rehabilitation Center, Tohoku University Hospital, <sup>3)</sup> Department of Rehabilitation, Hirosaki University	The Time-dependent Changes in EMG Recorded from the Medial Gastrocnemius of Young and Elderly Amputees.	J Phys Ther Sci. 2013 Nov;25(11):1511-3. doi: 10.1589/jpts.25.1511. Epub 2013 Dec 11.
13	Nakano H <sup>3</sup> , Sawamura D <sup>3</sup>	<sup>3</sup> Department of Dermatology, Hirosaki University School of Medicine	Pachyonychia congenita in Japan: report of familial cases with a recurrent KRT16 mutation.	Eur J Dermatol. 2014 Jan-Feb;24(1):122-3. doi: 10.1684/ejd.2013.2244.
14	Tatsuta T <sup>4</sup> , Tanaka H <sup>6</sup>	<sup>4</sup> Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, <sup>6</sup> Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki 036-8562, Japan; Department of School Health Science, Faculty of Education, Hirosaki University	ISG54 and ISG56 are induced by TLR3 signaling in U373MG human astrocytoma cells: Possible involvement in CXCL10 expression.	Neurosci Res. 2014 Mar 11. pii: S0168-0102(14)00037-6. doi: 10.1016/j.neures.2014.03.001. [Epub ahead of print]
15	Yokoyama Y, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Enhanced Inhibitory Effect of Meloxicam, A Cyclooxygenase-2 Inhibitor Combined with Cisplatin on the Growth of Human Ovarian Cancers	Journal of Tumor 2013 December 18 1(7): 53-61
16	Nakano H <sup>5</sup>	<sup>5</sup> Department of Dermatology, Hirosaki University School of Medicine	Karyopherin alpha 2 is essential for rRNA transcription and protein synthesis in proliferative keratinocytes.	PLoS One 2013;8(10):e76416.
17	Sawamura D*, Nakano H*	*Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Congenital insensitivity to pain with anhidrosis mimicking palmoplantar keratoderma.	Pediatr Dermatol 2013; 30(6): 754-756.
18	Nakano H <sup>3</sup>	<sup>3</sup> Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Hallopeau-Siemens dystrophic epidermolysis bullosa due to homozygous 5818delC mutation in the COL7A gene.	Pediatr Int 2013; 55(2): 234-237.
19	Ken Okumura <sup>k</sup>	<sup>k</sup> Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Current status of cardiac resynchronization therapy with defibrillators and factors influencing its prognosis in Japan	Journal of Arrhythmia 29(2013) 168-174
20	Murata A**	**Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine.	Characterization of Perineural Invasion As a Component of Colorectal Cancer Staging.	Am J Surg Pathol. 2013 Oct;37(10):1542-1549.
21	Nakano H, Sawamura D	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Dystrophic epidermolysis bullosa pruriginosa in a mother and daughter successfully treated by low dose cyclosporine.	Eur J Dermatol. 2013 Oct 1;23(5):727-9. doi: 10.1684/ejd.2013.2126.
22	Terui K <sup>3</sup> , Toki T <sup>3</sup> , Ito E <sup>3</sup>	<sup>3</sup> Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Clonal selection in xenografted TAM recapitulates the evolutionary process of myeloid leukemia in Down syndrome.	Blood. 2013 May 23;121(21):4377-87. doi: 10.1182/blood-2012-12-474387. Epub 2013 Mar 12.



番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
23	Toki T <sup>3</sup> , Kanezaki R <sup>3</sup> , Terui K <sup>3</sup> , Wang P <sup>3</sup> , Wang F <sup>3</sup>	<sup>3</sup> Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine,	The landscape of somatic mutations in Down syndrome- related myeloid disorders.	Nat Genet. 2013 Nov;45(11):1293-9. doi: 10.1038/ng.2759. Epub 2013 Sep 22.
24	Yasui-Furukori N <sup>++</sup>	(++)Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Effects of CYP2C19 and P450 Oxidoreductase Polymorphisms on the Population Pharmacokinetics of Clobazam and N-Desmethyloclobazam in Japanese Patients With Epilepsy.	Ther Drug Monit. 2014 Jun;36(3):302-9. doi: 10.1097/FTD.000000000 00000015.
25	Yasui-Furukori N <sup>c</sup>	(c)Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine.	Pregnane X receptor and hepatocyte nuclear factor 4 $\alpha$ polymorphisms are cooperatively associated with carbamazepine autoinduction.	Pharmacogenet Genomics. 2014 Mar;24(3):162-71. doi: 10.1097/FPC.000000000 00000030.
26	Yanagisawa M <sup>4</sup>	<sup>4</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Overexpression of cyclooxygenase-2 in malignant peripheral nerve sheath tumor and selective cyclooxygenase-2 inhibitor-induced apoptosis by activating caspases in human malignant peripheral nerve sheath tumor cells.	PLoS One. 2014 Feb 6;9(2):e88035. doi: 10.1371/journal.pone.0 088035. eCollection 2014.
27	Okumura K,	Department of Cardiology, Hirosaki University Hospital	Syncope in high-risk cardiomyopathy patients with implantable defibrillators: frequency, risk factors, mechanisms, and association with mortality: results from the multicenter automatic defibrillator implantation trial-reduce inappropriate therapy (MADIT-	Circulation. 2014 Feb 4;129(5):545-52. doi: 10.1161/CIRCULATIO NAHA.113.004196. Epub 2013 Nov 7.
28	Mizunuma H <sup>c</sup>	<sup>c</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University School of Medicine	Association between cancer screening behavior and family history among Japanese women.	Prev Med. 2013 May;56(5):293-8. doi: 10.1016/j.ypmed.2013.0 1.017. Epub 2013 Feb 4.
29	Yokoyama Y <sup>8</sup>	<sup>8</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Comparison of the outcome between cervical adenocarcinoma and squamous cell carcinoma patients with adjuvant radiotherapy following radical surgery: SGSG/TGCU Intergroup Surveillance.	Mol Clin Oncol. 2013 Jul;1(4):780-784. Epub 2013 May 9.
30	Okumura K <sup>3</sup>	<sup>3</sup> Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Impact of gender on the prognosis of patients with nonvalvular atrial fibrillation.	Am J Cardiol. 2014 Mar 15;113(6):957-62. doi: 10.1016/j.amjcard.2013. 11.057. Epub 2013 Dec
31	Norio Yasui- Furukori <sup>2</sup> , Shoko Tsuchimine <sup>2</sup> , Nori o Sugawara <sup>2</sup> , Manabu Saito <sup>2</sup> , Akira Fuji <sup>2</sup> , i.	<sup>2</sup> Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine,	Possible associations between antioxidant enzyme polymorphisms and metabolic abnormalities in patients with schizophrenia.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2013;9:1683-98. doi: 10.2147/NDT.S52585. Epub 2013 Nov 1.
32	Norio Yasui- Furukori	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine,	The $\beta$ -omeprazole hydroxylation index reflects CYP2C19 activity in healthy Japanese volunteers.	Eur J Clin Pharmacol. 2013 Jul;69(7):1423-8. doi: 10.1007/s00228- 013-1480-1. Epub 2013 Feb 24.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
33	Kazuhiko Nakamura <sup>5</sup>	<sup>5</sup> Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	Serum levels of soluble platelet endothelial cell adhesion molecule-1 and vascular cell adhesion molecule-1 are decreased in subjects with autism spectrum disorder.	Mol Autism. 2013 Jun 17;4(1):19. doi: 10.1186/2040-2392-4-19.
34	Norio Yasui-Furukori <sup>2</sup>	<sup>2</sup> Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	Meta-analysis: the effects of smoking on the disposition of two commonly used antipsychotic agents, olanzapine and clozapine.	BMJ Open. 2014 Mar 4;4(3):e004216. doi: 10.1136/bmjopen-2013-004216.

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容	別添1のとおり
③ 倫理審査委員会の開催状況	年84回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容	別添2のとおり
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年16回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容	①倫理指針を遵守した臨床研究申請、臨床研究・製造販売後調査の実施審査申請について

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

# 弘前大学大学院医学研究科 倫理委員会業務手順書

## 弘前大学大学院医学研究科倫理委員会

### 更新履歴

第1.0版	平成22年2月1日	施行
第2.0版	平成22年4月28日	改正
第2.1版	平成22年12月22日	改正
第2.2版	平成23年7月25日	改正
第2.3版	平成26年7月1日	改正

## 目次

1. はじめに	-----	2
2. 委員会の審査	-----	2
(1) 審査事項		
(2) 対象研究		
3. 申請区分	-----	2
4. 委員会の構成及び審査等	-----	3
(1) 本委員会		
(2) 紙上委員会		
5. 審査結果	-----	4
(1) 判定		
(2) 議決要件		
(3) 結果		
6. 承認後の報告等	-----	4
(1) 定期報告		
(2) 自己点検		
(3) 有害事象への対応		
(4) 中止報告		
(5) 終了報告		
7. 記録の管理及び公開	-----	5
8. 健康被害への補償について	-----	5
9. 臨床研究における利益相反について	---	6
10. 申請書受付から審査結果までのながれ	--	6

### 〈参考〉

- ・ 重篤な有害事象への対応方法
- ・ 倫理委員会申請書類

## 1. はじめに

弘前大学大学院医学研究科倫理委員会（以下、委員会）の運営及び審査に関する手順及び記録の保存方法については、本手順書に定めるものとする。委員会の庶務は医学研究科総務グループ（以下、担当事務）において行う。

## 2. 委員会の審査

### (1) 審査事項

委員会において審査する事項は、次のとおりとし、当該審査事項が、医の倫理に関するヘルシンキ宣言及び医学研究に関する倫理指針\*の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるかどうかについて、倫理的観点及び科学的観点から審査を行う。

- 1) 大学院医学研究科，医学部附属病院に所属する者が，医学研究科及び医学部附属病院において行う医療行為，医学研究及び教育等について※
- 2) 医学研究科における医学・医療の倫理的問題について

※特別な理由により，大学院保健学研究科又は被ばく医療総合研究所に所属する者が，医学研究科，保健学研究科，医学部附属病院及び被ばく医療総合研究所において行う医療行為，医学研究及び教育等について申請があった場合，委員長をもって委員会において審査するかの判断を行う。

### \*医学研究に関する倫理指針：

「臨床研究に関する倫理指針」，「疫学研究に関する倫理指針」，「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」，「遺伝子治療臨床研究に関する指針」，「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」

### (2) 対象研究

委員会において審査の対象とする研究は，次のとおりとする。

- 1) 遺伝子解析を伴う研究
- 2) 生殖医療（日本産科婦人科学会の指針に照らして疑義のあるものに限る。）
- 3) 臓器移植医療
- 4) 疫学研究
- 5) 個別症例に対する新医療
- 6) 上記に該当しない臨床試験・研究

## 3. 申請区分

申請区分は，次のとおりとする。

- (1) 新規
- (2) 申請内容変更
- (3) 再審査
- (4) 付議なし

「疫学研究に関する倫理指針」第1・4・(3)に該当するものであって，申請者が倫理委員会の付議を求めないもの又は「臨床研究に関する倫理指針」第2・3・(4)に該当するものであって，申請者が倫理委員会の付議を求めないもの。ただし，提出された「倫理委員会付

議を必要としない研究の申出書」及び「倫理審査申請書」を確認の上、該当すると委員長が判断したものに限る。

#### 4. 委員会の構成及び審査等

委員会は、会合による本委員会と紙上委員会とする。

どちらの委員会で審査を行うかについては、申請内容を確認し、委員長が判断する（申請書の振り分け）。

開催通知は、申請書振り分けの後、委員長から各委員へ通知する。

##### (1) 本委員会

###### 1) 開催日

原則として、月1回（8月を除く）最終水曜日に開催する。

申請書類提出期限は、原則として毎月10日とする。ただし、臨床研究利益相反マネジメント委員会での審査を必要とする場合は、当該委員会が定める期限とする。

###### 2) 審査事項

本委員会において審査するものは、次のとおりとする。

（「弘前大学大学院医学研究科倫理委員会に関する申合せ」第2）」

- ① 遺伝子解析を伴う臨床試験・研究等
- ② 臓器移植医療
- ③ 上記の他、患者等対象者の精神的・肉体的負担が大きいと判断されるもの
- ④ その他、委員長が判断したもの

###### 3) 成立要件

本委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立するものとする。ただし、緊急に招集された場合は、成立するものとする。

###### 4) 審査の方法

月1回（8月を除く）開催する委員会において審査する。

申請者（又は代理人）に委員会への出席を求め、研究計画の概略についての説明を受けた上で審査を行う。

##### (2) 紙上委員会

###### 1) 開催日

原則として1週間に1度開催する。ただし、生体肝移植など緊急性を要する申請の場合はこの限りではない。

###### 2) 審査事項

紙上委員会で審査するものは、次のとおりとする。

- ① 比較的軽微な研究計画
- ② 過去に承認された研究計画の軽微な変更  
（実施期間の延長、共同研究者の変更、検査項目の追加等）※

- ③再審査となったもの
- ④緊急を要するもの

※過去に承認された研究計画のうち、研究期間の変更や共同研究者の変更など、比較的軽微な申請内容変更申請については、委員長において審査し、本委員会にて委員の追認を求めることとする。

### 3) 審査の方法

次の要領により送付した資料を基に行う（書面審査）。審査結果により、委員長が申請者に説明を求める必要があると判断した場合は、本委員会での審査に切り替えて審査を行う。

再審査となった研究計画の再申請があった場合には、全委員による審査を原則とするが、付された条件の内容によっては、委員長の判断により、個別の委員のみによる審査とする。

#### 〈送付要領〉

- ①学外委員（医学分野以外の学内委員含む）：個別に送付する。
- ②学内委員：原則として電子メールによる個別送付とする。意見については、送付した回答書（電子ファイル）に記載し、電子メールにより回答するものとする。ただし、緊急を要するものについては、この限りではない。

## 5. 審査結果

### (1) 判定

審査結果の判定は、次の各号のいずれかとする。

#### 1) 承認

承認された研究期間内において研究実施を認める。

#### 2) 条件付き承認

委員会の意見を遵守することを条件に実施を認める。意見については、申請者に文書で通知する。修正後の申請書類等は、本委員会にて報告する。

#### 3) 再審査

委員会の意見に沿うように、申請書等の修正、実施方法の再検討を求める。意見については、申請者に文書で通知する。

再度申請があった場合は、担当事務及び委員長が確認の後、紙上委員会において審査する。

#### 4) 承認不可

倫理的に大きな問題があり、研究実施を認めない。

### (2) 議決要件

本委員会では全会一致を原則とする。

紙上委員会の場合は、各委員への意見を集約の上、最終的に委員長が判断する。

### (3) 結果

審査結果は、委員長から医学研究科長、保健学研究科長または医学部附属病院長へ答申し、申請者へは当該所属長から文書にて通知する。



結果が（１）の２）～４）と判定された場合には、委員会において申請者へ通知する内容（条件）を協議し、最終的に委員長が確認の上、申請者へ通知する。

## 6. 承認後の報告等

### （１）定期報告

申請者は、毎年８月に「定期報告書（様式7）」を提出する。

委員会では、提出された報告書により、研究の進行状況を確認する。報告内容によっては研究者に指導等を実施し、当該研究者所属の部局長へ報告する。

なお、対象となる課題は「その時点において実施している研究課題のうち、研究課題をデータベース化した平成19年度以降の研究課題」とする。

### （２）自己点検

申請者は、毎年８月に「チェックシート（様式8）」を提出する。

委員会では、提出されたチェックシートにより、全研究の自己点検評価を確認し、医学研究科、保健学研究科、医学部附属病院における研究について自己評価を行い、当該研究者所属の部局長に報告する。また、評価内容によっては改善を行う。

なお、対象となる課題は「その時点において実施している研究課題のうち、研究課題をデータベース化した平成19年度以降の研究課題」とする。

### （３）有害事象への対応

臨床研究及び治療において重篤な有害事象が生じた場合は、「弘前大学大学院医学研究科、大学院保健学研究科および医学部附属病院において実施される臨床研究・治療に関する重篤な有害事象への対応方法について」に基づき対応する。

### （４）中止報告

申請者は、現在実施している研究課題について、研究を中止した場合には、「臨床研究等中止報告書（様式9）」を提出する。

委員会では、報告書により研究の中止状況を確認する。内容によっては研究者に指導等を実施し、当該研究者所属の部局長に報告する。

### （５）終了報告

申請者は、平成19年度以降に承認された倫理申請について、研究期間を終了した場合は、終了後半年以内に「臨床研究等終了報告書（様式10）」を提出する。

提出された報告書は、委員長が確認の後、本委員会で報告する。

## 7. 記録の管理及び公開

担当事務は、委員会の開催、審査及び部局長への報告に関する資料を作成し、次の資料を保存する。保存期間は5年間とする。

医学研究科教授会へ報告後、議事要旨の概略を倫理委員会ウェブサイト上に公開する。

- 1) 業務手順書
- 2) 委員会審査の審査対象となった資料
- 3) 委員会議事要旨

#### 4) 結果通知書

### 8. 健康被害への補償について

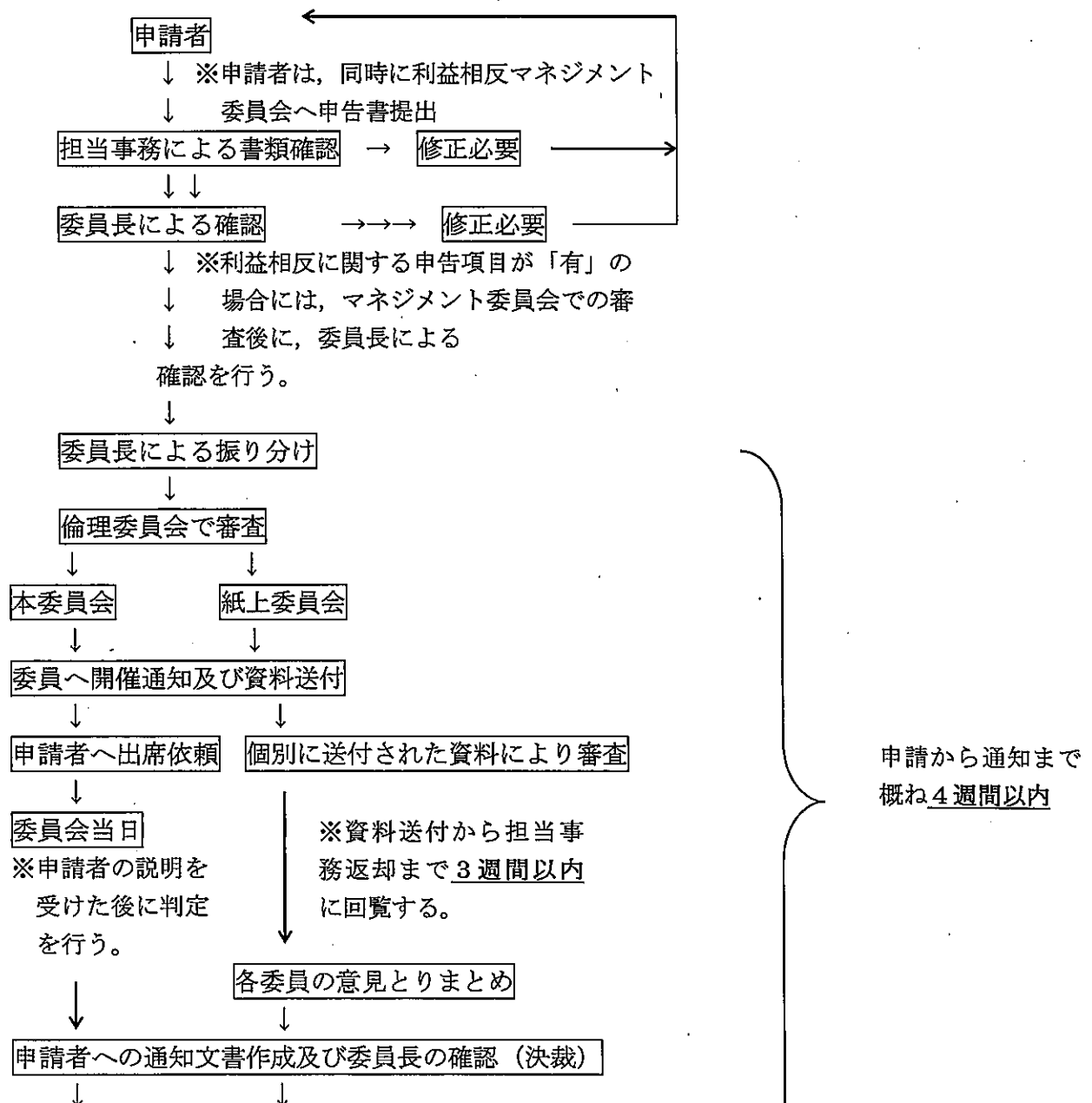
健康被害への補償としての臨床研究保険の取り扱いについては、次のとおりとする。

- 1) 加入の必要性についての判断は、申請者及び申請者所属講座等が行う。
- 2) 委員会では、当該研究計画書へ補償の有無に関する事項が明記されているかどうかについて確認する。内容に対して意見がある場合には、申請者へ通知する。

### 9. 臨床研究における利益相反について

臨床研究における利益相反については、利益相反マネジメント委員会において評価し、倫理委員会では、マネジメント委員会から報告された評価結果の確認を参考に審査を行う。

### 10. 申請書受付から審査結果までのながれ



結果通知（所属長へ答申，申請者へ通知）

※紙上委員会の結果については，結果通知後に開催予定の本委員会で報告する。  
（結果通知を資料として委員に回覧する方法とする。）

条件付きで承認した場合に提出された修正書類等についても，同様の方法により本委員会で報告する。

## ○国立大学法人弘前大学利益相反マネジメント規程

(平成21年10月22日制定規程第7号)

改正 平成24年2月1日規程第5号 平成25年4月19日規程第69号

## (目的)

- 第1条 この規程は、弘前大学利益相反ポリシー(平成20年3月24日制定)に基づき、国立大学法人弘前大学(以下「本学」という。)の利益相反マネジメントに関し必要な事項を定め、本学並びに本学の役員及び職員(以下「職員等」という。)が社会貢献活動に取り組むための環境整備に資することを目的とする。
- 2 医学研究(臨床研究等)における利益相反マネジメントに関し必要な事項は、この規程に定めるもののほか、別に定めるところによる。

## (定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 利益相反 教育及び研究に関する本学及び職員等としての責任と、本学及び職員等が企業等との関係で得る利益又は責任が相反する次に掲げる状況をいう。
- イ 職員等が社会貢献活動によって利益(実施料収入、報酬、未公開株式等をいう。ハにおいて同じ。)を得る行為と本学における教育及び研究に係る責任が相反している状況
- ロ 職員等が主に兼業活動により企業等に職務遂行責任を負い、かつ、本学における職務遂行責任と企業等に対する職務遂行責任が相反している状況
- ハ 本学が社会貢献活動によって 〃と本学の社会的責任が相反している状況
- (2) 企業等 国、地方公共団体、独立行政法人、会社その他の営利企業又はその他の団体をいう。
- (3) 利益相反マネジメント 本学及び本学の職員等の利益相反を把握及び管理することをいう。

## (利益相反マネジメントの対象)

第3条 利益相反マネジメントの対象となる事象は、次の各号に掲げる場合とする。

- (1) 職員等が社会貢献活動を行う場合(例えば、企業等との兼業活動、共同研究及び受託研究、自らが関わる知的財産権の企業等への譲渡及び実施許諾等並びに企業等からの研究員等の受入れを行う場合等をいう。)で、次のいずれかに該当するとき。
- イ 当該企業等から、一定額以上の金銭の供与を受ける場合
- ロ 当該企業等から、一定額以上の物品等の供与を受け、又は購入する場合
- ハ 当該企業等から、一定比率以上の持分の株式、出資金、新株予約権及び受益権等を取得する場合
- ニ 学生及び研究生を社会貢献活動に従事させる場合
- (2) その他次条に規定する利益相反マネジメント委員会が対象事象と認めた場合

## (利益相反マネジメント委員会の設置)

第4条 本学に、利益相反マネジメントに関する具体的事項を審議するため、利益

相反マネジメント委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 利益相反ポリシーに関すること。
- (2) 利益相反マネジメントに係る規程等の制定及び改廃に関すること。
- (3) 利益相反に係る個別案件の調査及び審議に関すること。
- (4) 利益相反に係る外部からの指摘への対応に関すること。
- (5) その他本学の利益相反に係る重要事項に関すること。

(組織)

第6条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事(企画担当)
- (2) 理事(研究担当)
- (3) 各学部及び研究科の教育研究評議会評議員(学部長及び研究科長を除く。)
- (4) 大学院地域社会研究科から選出された教授 1名
- (5) 医学部附属病院の副病院長 1名
- (6) 利益相反アドバイザー
- (7) 総務部長及び研究推進部長
- (8) その他委員長が必要と認める者

2 前項第8号の委員は、委員会の議を経て、学長が委嘱する。

(任期)

第7条 前条第1項第8号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第8条 委員会に委員長を置き、第6条第1項第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を主宰する。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第9条 委員会の会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 3 委員は、自己の携わる社会貢献活動に係る利益相反については、その議事に加わることができない。
- 4 前項の規定により議事に加わることができない委員の数は、第1項及び第2項の委員の数に算入しないものとする。
- 5 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第10条 委員会が必要と認めたときは、専門的事項を調査又は審議するために、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(利益相反アドバイザー)

第11条 本学に、利益相反に関して指導及び助言を行わせるため、利益相反アドバイザーを置く。

2 利益相反アドバイザーは、次の各号に掲げる専門的知識を有する者のうちから学長が委嘱する。

- (1) 利益相反に関し専門的知識を有する弁護士又は公認会計士
- (2) 利益相反に関し高度な実務経験を有する者
- (3) 利益相反に関し高度な学識経験を有する者

3 利益相反アドバイザーの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の利益相反アドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

(利益相反相談員)

第12条 本学に、利益相反について職員等からの個別相談に応じさせるため、利益相反相談員を置く。

2 利益相反相談員は、利益相反に関し専門的知識を有する者のうちから学長が委嘱する。

3 利益相反相談員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の利益相反相談員の任期は、前任者の残任期間とする。

(申告)

第13条 職員等は、第3条に定める対象となる事象について、委員会に対し、所定の時期又は当該事象の発生前に自己申告書を提出するものとする。

2 自己申告の実施方法及び自己申告書の様式は、委員会が別に定める。

(審査、回避要請等)

第14条 委員会は、前条の自己申告書に基づき利益相反を審査の上、当該申告を行った職員等に対し、承認又は回避要請の別により通知するものとする。

2 委員会は必要に応じて、職員等への事情聴取等を実施することができる。

3 委員会は、第1項の規定による通知後においても、引き続きその実施状況を把握するものとする。

(不服申立て)

第15条 前条第1項の規定により回避要請の通知を受けた職員等は、その内容について不服がある場合には、学長に対して書面により不服申立てを行うことができる。

2 学長は、職員等から不服申立てがあった場合には、委員会に再審査を指示するものとする。

3 学長の指示を受けた委員会は、再度審査を行い、速やかに審査の結果を学長に報告するものとする。

4 学長は、前項の報告に基づき、不服申立てに対する処置を決定し、当該職員等に対し通知するものとする。

(外部からの指摘への対応)

第16条 学長は、第13条の規定により申告を行った職員等に関し、外部から利益相反の指摘があったときは、委員会の審議の結果を基に必要な説明を行う。

(秘密の保持)

第17条 第4条及び第10条から第12条までに定める委員会等に関与する者は、その業務により知り得た一切の情報に係る秘密を他に漏えいし、又は提供してはならない。その業務に従事しなくなった後も同様とする。

- 2 職員等から提出された利益相反に関する申告書等の書類は、受付日から5年間保存するものとし、国立大学法人弘前大学保有個人情報管理規程(平成17年規程第4号)の定めるところにより、管理しなければならない。

(事務)

第18条 利益相反マネジメントに関する事務については、関係部署との連携の下、研究推進部研究推進課において処理する。

(その他)

第19条 この規程に定めるもののほか、利益相反マネジメントに関し必要な事項は、委員会が別に定める。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成21年10月22日から施行し、平成21年10月1日から適用する。
- 2 この規程施行後、最初に委嘱される第6条第1項第8号の委員、第11条第2項に定める利益相反アドバイザー及び第12条第2項に定める利益相反相談員の任期は、第7条本文、第11条第3項本文及び第12条第3項本文の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

#### 附 則(平成24年2月1日規程第5号)

この規程は、平成24年2月1日から施行する。

#### 附 則(平成25年4月19日規程第69号)

この規程は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日から適用する。

## 臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

### (目的)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学利益相反マネジメント規程（平成21年規程第7号。以下「規程」という。）第1条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科及び保健学研究科並びに医学部附属病院（以下「医学系部局」という。）において臨床研究に係わる本学職員の利益相反マネジメント（以下「マネジメント」という。）に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 臨床研究 予防、診断及び治療方法の改善、疾病原因及び病態の理解の向上並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの（個人を特定できるデータに関する研究等を含む。）をいう。
- (2) 臨床研究に係る利益相反 臨床研究を実施する者及びその関係者が臨床研究によって得られる直接的及び間接的利益と、教育・研究を実施する大学人としての責務又は患者の治療のために最善を尽くす医療関係者としての責務などが衝突・相反している状況をいう。

### (対象及び基準)

第3条 この規程に基づくマネジメントの対象者は、医学系部局において臨床研究に係わる職員とする。

2 マネジメントは、次に掲げる場合を対象として行う。

- (1) 職員が臨床研究に係わる産学官連携活動を行う場合（例えば、臨床研究を伴う企業等との共同研究及び受託研究、臨床研究に基づき創出された自らが関わる知的財産権の企業等への譲渡及び実施許諾等を行う場合等が該当する。）で、次のいずれかに該当する場合
  - ① 当該企業等から一定額以上の金銭の供与を受ける場合
  - ② 当該企業等から一定額以上の物品等の供与を受け、又は購入する場合
  - ③ 当該企業等から一定比率以上の持分の株式、出資金、新株予約権及び受益権等を取得する場合
  - ④ 当該企業等の役員等に就任し、当該企業等の経営に関与する場合
- (2) その他次条に規定する委員会がマネジメントの対象と認めた場合

3 マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育・研究者又は医療関係者としての公正性に著しく疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。

### (委員会)

第4条 医学系部局における臨床研究に係る利益相反を適切に管理するため、弘前大学臨床研究利益相反マネジメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。



(組織及び任期)

第5条 委員会は次の各号の委員をもって組織する。

- (1) 医学研究科基礎系教授 1名
  - (2) 医学研究科臨床系教授 1名
  - (3) 保健学研究科教授 2名
  - (4) 医学研究科倫理委員会又は医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会から選出された者 1名
  - (5) 学外有識者 1名
- 2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。
- 4 委員長は、委員会を招集してその議長となる。
- 5 副委員長は、委員長に事故があるときにその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2. 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(委員会の業務)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議し、その結果を各医学系部局の長に報告する。

- (1) マネジメントのための調査に関する事項
- (2) マネジメントにおける評価及び指導に関する事項
- (3) マネジメントに関する職員からの相談に関する事項
- (4) マネジメントに関する外部への説明に関する事項
- (5) マネジメントに関する規程等の整備に関する事項
- (6) その他マネジメントに関して必要な事項

(申告)

第8条 臨床研究を代表して行う者（以下「研究代表者」という。）は、臨床研究を開始する前に、臨床研究に係る利益相反自己申告書（別紙様式1。以下「申告書」という。）を、医学研究科倫理委員会又は医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会（以下「倫理委員会等」という。）に提出する審査申請書とともに、所属する医学系部局の長（以下「所属長」という。）に提出しなければならない。

- 2 研究代表者は、研究が終了するまでの期間、毎年4月1日現在における当該臨床研究に係る利益相反の状況について申告書を記載し、所属長に提出しなければならない。
- 3 研究代表者は、申告した内容に変更があった場合、変更申告書（別紙様式2）に変更内容に

ついて記載し、所属長に提出しなければならない。

- 4 臨床研究を共同して行う者（以下「共同研究者」という。）及び委員会委員並びに産学官連携及び臨床研究受入に関与する者は、委員会から調査依頼があった場合、所属長に申告書を提出しなければならない。

（評価、指導等の手続）

第9条 委員会は、所属長の諮問に基づき、申告書の内容について審議し、利益相反状態の評価結果について倫理委員会等に報告するものとする。

- 2 委員会は、審議の結果、必要と認められる場合は、研究代表者に対してヒアリングを実施し、利益相反状態の改善に向けた指導を行うことができる。この場合、研究代表者は指導に基づく是正の内容について、書面により委員会へ提出しなければならない。
- 3 研究代表者は、前項の委員会の指導の内容に異議がある場合、所属長に対し異議申立を行うことができる。この場合、委員会は、所属長の諮問に基づき再度審議し、評価結果について倫理委員会等に報告するものとする。
- 4 委員会は、重大な利益相反状態にある又はそのような状態が危惧されると認めた場合は、所属長及び全学で設置する利益相反マネジメント委員会へ報告するものとする。
- 5 委員会委員が研究代表者又は共同研究者である場合は、当該マネジメントに加わることはできない。

（守秘義務等）

第10条 マネジメントに携わる職員等は、マネジメントを通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。また、マネジメントに係る業務から退いた後も同様とする。

- 2 職員等から提出された利益相反に関する申告書等の書類は、受付日から5年間保存するものとし、国立大学法人弘前大学保有個人情報管理規程（平成17年規程第4号）の定めるところにより、管理しなければならない。

（事務）

第11条 マネジメントに関する事務は、関係部署との連携の下、医学研究科事務部において行う。

（その他）

第12条 この規程に定めるもののほか、マネジメントの実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成21年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後、最初に選出される委員の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、同条第1項第1号及び第4号の委員並びに第3号の委員1名については平成22年3月31日までとし、その他の委員については平成23年3月31日までとする。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

弘前大学医学部附属病院の専門医養成研修プログラムは、将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を目標としている。そのために、大学病院ならではの症例等の豊富さ、経験豊かな先輩医師、診療科を超えた総合的診療体制、大学院在籍中でも研修可能など多くのメリットを活用して、若き医師の学位、各領域認定医・専門医の資格取得などキャリアアップを支援する体制を整えている。現在、以下の各学会の公認する専門医養成施設となっている。

日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本肝臓学会、日本アレルギー学会、日本老年医学会、日本神経学会、日本消化器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構、日本小児外科学会、日本感染症学会、日本心身医学会、日本リウマチ学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本産期・新生児医学会、日本超音波医学会、日本核医学会、日本集中治療医学会、日本輸血・細胞治療学会、日本透析医学会、日本臨床腫瘍学会、日本ペインクリニック学会、日本脳卒中学会、日本てんかん学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本高血圧学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本手外科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本口腔外科学会、日本がん治療認定医機構・日本がん治療認定医機構（歯科口腔外科）、日本心療内科学会、日本熱傷学会、日本脳神経血管内治療学会、日本臨床細胞学会、日本緩和医療学会、日本頭頸部外科学会、日本臨床薬理学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、日本認知症学会、日本小児循環器学会、日本生殖医学会、日本胆道学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本小児血液・がん学会、日本心臓血管麻酔学会、日本不整脈学会・日本心電学会、日本小児口腔外科学会、日本脈管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本消化管学会、日本口腔腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本総合病院精神医学会

2 研修の実績

研修医の人数	237人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
福田 眞作	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	教授	33年	消化器内科専門医養成コース, 血液内科専門医養成コース, リウマチ専門医養成コース
奥村 謙	循環器内科, 呼吸器内科, 腎臓内科	教授	38年	認定内科医専門コース, 循環器内科専門医コース, 呼吸器内科専門医コース, 腎臓内科・透析専門医養成コース
大門 眞	内分泌内科, 糖尿病代謝内科, 感染症科	教授	32年	内分泌・代謝内科専門医養成コース
東海林 幹夫	神経内科	教授	34年	神経内科専門医養成コース
佐藤 温	腫瘍内科	教授	26年	腫瘍内科専門医養成コース
中村 和彦	神経科精神科	教授	24年	神経科専門医/精神保健指定専門医養成コース
伊藤 悦朗	小児科	教授	33年	小児科専門医養成コース
福田 幾夫	呼吸器外科, 心臓血管外科	教授	35年	外科専門医コース, 呼吸器外科専門医養成コース, 心臓血管外科専門医養成コース
袴田 健一	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	教授	29年	消化器外科専門医養成コース, 乳腺専門医養成コース
袴田 健一	小児外科	教授	29年	消化器外科専門医養成コース
石橋 恭之	整形外科	教授	26年	整形外科専門医養成コース
澤村 大輔	皮膚科	教授	32年	皮膚科専門医養成コース
大山 力	泌尿器科	教授	30年	泌尿器科専門医養成コース
中澤 満	眼科	教授	34年	眼科専門医養成コース
松原 篤	耳鼻咽喉科	教授	27年	耳鼻科専門医養成コース
高井 良尋	放射線科	教授	38年	放射線科専門医養成コース
水沼 英樹	産科婦人科	教授	39年	産科・婦人科専門医養成コース
廣田 和美	麻酔科	教授	28年	麻酔科専門医養成コース
大熊 洋揮	脳神経外科	教授	31年	脳神経外科専門医養成コース
漆館 聡志	形成外科	教授	19年	形成外科専門医養成コース
花田 裕之	救急科	准教授	29年	救急救命医専門医養成コース
萱場 広之	検査部	教授	32年	臨床検査専門医養成コース
黒瀬 顕	病理診断科	教授	26年	病理専門医養成コース
加藤 博之	総合診療部	教授	30年	家庭医療専門医養成コース
木村 博人	歯科口腔外科	教授	34年	口腔外科専門医養成コース

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 藤 哲
管理担当者氏名	事務部長 寺坂 和記

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴部及び医療情報部	電子カルテ方式にて管理。ただし、同意書等の手書きを要した記録類については、電子化後も紙媒体にて管理。 紙診療記録及びレントゲンフィルムについては、診療記録管理規程により、病院外への持ち出しを禁止している。 医療情報パソコン及びローカル保存データは、情報管理システム運用管理規程の定めにより、システム管理者の許可を得て、病院外への持ち出しができることとなっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	ファイル形式(紙媒体)
	高度の医療の提供の実績	経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
第規一則号第一に掲げる十体制第一項保各号状及び第九条の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	ファイル形式(紙媒体)
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御センター	ファイル形式(紙媒体)
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 藤 哲	
閲覧担当者氏名	事務部長 寺坂 和記	
閲覧の求めに応じる場所	病院小会議室	
閲覧の手続の概要	別紙のとおり	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## 別紙

## ○国立大学法人弘前大学情報公開取扱規程

(平成16年4月1日制定規程第82号)

改正 平成22年7月30日規程第57号 平成22年9月28日規程第74号  
平成24年5月16日規程第72号 平成25年4月19日規程第41号  
平成26年3月28日規程第47号

## (趣旨)

第1条 国立大学法人弘前大学(以下「本学」という。)における情報公開の実施に係る取扱いについては、法令又は別に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

## (定義)

第2条 この規程において「法人文書」とは、独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号。以下「法」という。)第2条第2項に規定するものをいう。

2 この規程において「行政機関」とは、行政機関の保有する情報の公開に関する法律(平成11年法律第42号)第2条第1項各号に規定する機関をいう。

3 この規程において「部局等」とは、事務局各部並びに人文学部、教育学部及び農学生命科学部並びに大学院医学研究科、保健学研究科、理工学研究科及び地域社会研究科並びに北日本新エネルギー研究所、白神自然環境研究所、被ばく医療総合研究所及び食料科学研究所並びに附属図書館、医学部附属病院、各学内共同教育研究施設、学生就職支援センター、法人内部監査室及び学長室をいう。

## (受付)

第3条 本学が保有する法人文書について、開示請求があった場合は、国立大学法人弘前大学情報公開室(以下「情報公開室」という。)において次の各号に定めるところにより受け付ける。

- (1) 本学が保有する法人文書の開示を請求する者(以下「開示請求者」という。)に対し、国立大学法人弘前大学法人文書管理規程(平成16年規程第35条)第9条第1項に規定する弘前大学法人文書ファイル管理簿その他関連資料等を用いて、法人文書の特定に資する情報の提供に努めなければならない。
- (2) 開示請求を受け付けるときは、開示請求者に第1号様式の法人文書開示請求書(以下「開示請求書」という。)を提出させるとともに、開示請求手数料300円を徴収するものとする。この場合において、開示請求書に形式上の不備があるときは、開示請求者に参考となる情報を提供し、その補正を求めることができる。
- (3) 開示請求書を受理したときは、開示請求者に開示請求書の写しを交付するとともに、開示請求書の写しを開示請求のあった法人文書を保有する部局等に送付する。

## (開示等の検討)

第4条 学長は、法人文書の開示、不開示(以下「開示等」という。)を検討するに当たって、当該法人文書を保有する部局等の長の意見を求めるとともに、必要に応じて国立大学法人弘前大学情報公開・個人情報保護委員会(以下「委員会」という。)に意見を求めるものとする。

## (開示等の決定)

第5条 学長は、法第4条第2項に規定する補正に要した日数を除き、開示請求があった日から30日以内に開示等の決定をする。

2 学長は、法第10条第2項の規定により開示等の決定を30日以内の期間で延長する



ときは、第2号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。

- 3 学長は、法第11条の規定により開示請求に係る法人文書のうちの相当の部分を除く残りの部分について、決定する期間を延長するときは、第3号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。
- 4 学長は、法第12条第1項の規定により事案を他の独立行政法人等の長に移送するときは、第4号様式により当該独立行政法人等の長へ移送するとともに、第5号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。
- 5 学長は、法第13条第1項の規定により事案を行政機関の長に移送するときは、第6号様式により行政機関の長へ移送するとともに、第7号様式により当該開示請求書に通知しなければならない。
- 6 学長は、法第14条第1項及び第2項の規定により第三者から意見を聴取するときは、当該第三者に対し、第8号様式又は第9号様式により照会し、第10号様式の提出を求めるものとする。
- 7 学長は、法第14条第3項の規定により第三者の意に反して開示するときは、第11号様式により当該第三者に通知しなければならない。
- 8 学長は、開示等の決定をしたときは、第12号様式、第13号様式又は第14号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。

#### (開示の実施)

- 第6条 学長は、法第15条第3項の規定により法人文書の開示を受ける者から第15号様式又は第16号様式による開示の実施方法の申出書が提出されたとき、又は法第15条第5項の規定により開示を受ける者から第17号様式による更なる開示の申出書が提出されたときは、開示を受ける者の便宜を図って開示を実施する。
- 2 前項の規定により開示を実施するときは、行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成12年政令第41号)第13条の規定を準用して、開示実施手数料を徴収する。
  - 3 法人文書の開示は、原則として情報公開室において実施する。ただし、法人文書を移動すると汚損の危険性がある場合や利用者の居所等の都合により情報公開室まで出向くことができない場合には、当該法人文書を保有する部局等において実施する。
  - 4 開示を受ける者が法人文書の写しの送付による開示の実施を希望する場合は、情報公開室において法人文書の写しを送付する。この場合、郵送料を郵便切手で徴収する。

#### (開示の実施の方法)

第6条の2 法施行令(平成14年政令第199号)第4条第2項の規定による開示の実施の方法は、行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令第9条の規定を準用する。

#### (開示実施手数料の減額等)

- 第7条 学長は、第6条第2項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合は、法第17条第3項の規定に基づき、開示実施手数料を減額又は免除することができる。この場合、必要に応じて委員会の意見を求めるものとする。
- (1) 開示を受ける者から第18号様式により開示実施手数料の減額又は免除の申出があったとき。
  - (2) 開示決定に係る法人文書を一定の方法により一般に周知させることが適当であると認めるとき。
- 2 学長は、開示実施手数料の減額又は免除の措置を、第19号様式又は第20号様式

により当該開示を受ける者に通知しなければならない。

(移送された事案)

第8条 法第12条第2項の規定により他の独立行政法人等から移送された事案に係る開示等の検討及び決定並びに開示の実施については、第4条から第7条までの規定に準じて行う。

2 行政機関の保有する情報の公開に関する法律(平成11年法律第42号)第12条の2第1項の規定により行政機関から移送された事案に係る開示等の検討及び決定並びに開示の実施については、第4条から第7条までの規定に準じて行う。

(不服申立て)

第9条 学長は、開示をしない旨の決定等について不服申立てがあったときは、委員会の意見を求めるものとする。

2 学長は、法第18条の規定により情報公開・個人情報保護審査会に諮問するときは、第21号様式により諮問書を情報公開・個人情報保護審査会へ提出するとともに、第22号様式により不服申立てをした者(以下「不服申立者」という。)に通知しなければならない。

3 学長は、不服申立てに対する決定をしたときは、第23号様式により不服申立者に通知しなければならない。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、情報公開の実施に関して必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月16日から施行し、改正後の規定は、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成21年2月9日から施行する。

附 則(平成22年7月30日規程第57号)

この規程は、平成22年8月1日から施行する。

附 則(平成22年9月28日規程第74号)

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

附 則(平成24年5月16日規程第72号)

この規程は、平成24年5月16日から施行する。

附 則(平成25年4月19日規程第41号)

この規程は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日か

ら適用する。

附 則(平成26年3月28日規程第47号)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

第1号様式(第3条第2号関係)

法人文書開示請求書

[別紙参照]

第2号様式(第5条第2項関係)

開示決定等の期限の延長について(通知)

[別紙参照]

第3号様式(第5条第3項関係)

開示決定等の期限の特例規定の適用について(通知)

[別紙参照]

第4号様式(第5条第4項関係)

開示請求に係る事案の移送について

[別紙参照]

第5号様式(第5条第4項関係)

開示請求に係る事案の移送について(通知)

[別紙参照]

第6号様式(第5条第5項関係)

開示請求に係る事案の移送について

[別紙参照]

第7号様式(第5条第5項関係)

開示請求に係る事案の移送について(通知)

[別紙参照]

第8号様式(第5条第6項関係)

法人文書の開示請求に関する意見について(照会)

[別紙参照]

第9号様式(第5条第6項関係)

法人文書の開示請求に関する意見について(照会)

[別紙参照]

第10号様式(第5条第6項関係)

法人文書の開示に関する意見書

[別紙参照]

第11号様式(第5条第7項関係)

法人文書の開示決定について(通知)

[別紙参照]

第12号様式(第5条第8項関係)

法人文書開示決定通知書

[別紙参照]

第13号様式(第5条第8項関係)  
法人文書部分開示決定通知書  
[別紙参照]

第14号様式(第5条第8項関係)  
法人文書不開示決定通知書  
[別紙参照]

第15号様式(第6条第1項関係)  
法人文書の開示の実施方法等申出書  
[別紙参照]

第16号様式(第6条第1項関係)  
法人文書の開示の実施方法等申出書  
[別紙参照]

第17号様式(第6条第1項関係)  
法人文書の更なる開示の申出書  
[別紙参照]

第18号様式(第7条第1項第1号関係)  
開示実施手数料の減額(免除)申請書  
[別紙参照]

第19号様式(第7条第2項関係)  
開示実施手数料減額(免除)決定通知書  
[別紙参照]

第20号様式(第7条第2項関係)  
開示実施手数料の減額(免除)について  
[別紙参照]

第21号様式(第9条第2項関係)  
諮問書  
[別紙参照]

第22号様式(第9条第2項関係)  
情報公開・個人情報保護審査会への諮問について(通知)  
[別紙参照]

第23号様式(第9条第3項関係)  
不服申立てに対する決定通知書  
[別紙参照]

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ① 医療安全管理に関する基本的考え方 ② 医療安全管理のための組織体制 ③ 院内報告体制 ④ 安全な医療を提供するための職員研修 ⑤ 安全確保を目的とした改善のための要点 ⑥ 医療事故発生時の対応 ⑦ 医療従事者と患者様との間の情報の共有に関する基本方針 ⑧ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ⑨ その他医療安全推進の要点	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年14回
・ 活動の主な内容： ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討 ② 医療事故防止マニュアルの作成 ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施 ④ 医療事故の調査・報告、原因分析及びその対策 ⑤ 医事紛争の予防・防止及びその対策	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容： ① 医療安全ハンドブック説明会 ② 医薬品安全管理研修会 ・ 麻薬の取り扱いについて～事件事例を中心に ・ 医薬品が正しく使われるために～副作用報告の持つ意味 ③ 医療安全講演会 ・ 医療訴訟と大学病院のリスクマネジメント2013～弁護士との戦略～ ④ BLS部署別講習会 ⑤ 医療機器安全管理研修会 ・ 医療機器に対する適正立ち会いと今後の展望 ⑥ 医療安全・感染対策合同研修会 ⑦ 生体モニターの安全使用とアラームの基本設定について	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 医療事故発生時、安全管理委員会への報告 ② 医療事故の事例収集・分析により、院内での問題点を把握し、改善策の企画立案及び評価の上、情報を共有 ③ 重大な医療事故発生時の管理者への報告	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 3名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 9 ) 名 ・ 活動の主な内容： ① 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成及び保存並びに委員会の庶務 ② 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認並びに指導 ③ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況の確認並びに指導 ④ 事故等の原因究明が適切に実施されているかの確認並びに指導 ⑤ 医療安全に係る連絡調整 ⑥ その他医療安全対策の推進	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染対策の基本的考え方</li><li>② 院内感染対策のための組織体制</li><li>③ 院内感染対策のための職員研修</li><li>④ 院内感染発生状況の報告体制</li><li>⑤ 院内感染発生時の対応</li><li>⑥ 患者様等に対する院内感染対策のための指針閲覧に関すること</li><li>⑦ 器材の滅菌・消毒・洗浄</li><li>⑧ その他院内感染対策推進のための基本方針</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染防止対策の検討</li><li>② 院内感染防止マニュアルの作成</li><li>③ 院内感染防止の教育、研修の実施</li><li>④ 院内感染発生時の周知体制</li><li>⑤ 院内感染発生時の原因分析、改善策立案・実施、職員への周知</li><li>⑥ 委員会で立案された改善策の実施状況の調査・見直し</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策</li><li>② 院内感染対策に対する意識向上を目的とした内容</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染の発生状況を把握するため、院内での感染症の発生動向の情報を共有。</li><li>② 重大な院内感染発生時、地域の専門家等に相談が行われる体制を確保。</li><li>③ 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備。</li></ul>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 医薬品の有効性・安全性・使用方法について</li><li>② 医薬品安全管理手順書について</li><li>③ 医薬品による副作用等が発生した場合の対応について</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<p>( ○有・無 )</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成</li><li>・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 医薬品採用・購入</li><li>② 医薬品の管理全般</li><li>③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること</li><li>④ 患者に対する与薬や服薬指導に関すること</li><li>⑤ 医薬品情報の収集・管理・提供</li><li>⑥ 他施設との連携</li></ul></li></ul>
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<p>( ○有・無 )</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 医薬品安全管理責任者に対して、医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し管理させる</li><li>② 得られた情報のうち必要なものは職員に迅速かつ確実に周知徹底を図る</li></ul></li></ul>

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年31回
・ 研修の主な内容： ① 医療機器の有効性・安全性 ② 医療機器の使用法 ③ 医療機器の保守点検 ④ 医療機器不具合発生時等の対応 ⑤ 医療機器使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( ①・無 ) ・ 保守点検の主な内容： ・ 検査部門 : 各検査機器マニュアルに添付されている、デリー・ウィークリー及びマン スリーの保守点検表のチェック ・ 放射線部門 : ①毎日の始業点検と終業点検、②定期保守点検(放射線治療機器、MRI装置、C T装置、血管撮影装置)、③消耗部品の耐久時間・過去の故障実績を鑑みたス ポット点検、④故障時の修理・部品交換に合わせた点検 ・ MEセンター : 年間点検計画に基づき、定期点検又始業点検、動作中点検を行い、安全点検 システムMARISで一括管理をしている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ①・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 添付文書等の管理 ② 医療機器に係る安全性情報等の収集 ③ 病院管理者への報告	